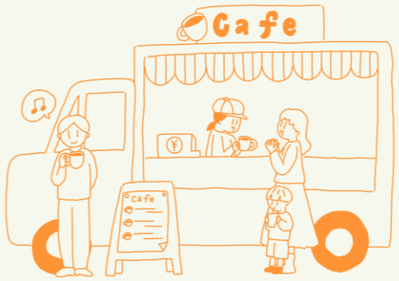
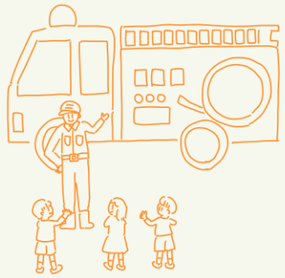
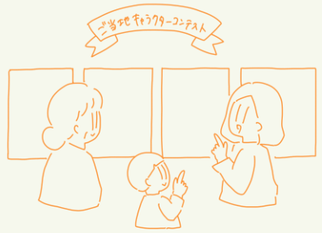
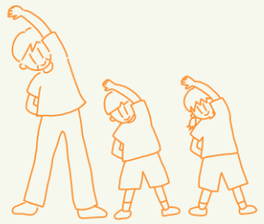






# 草加市
# コミュニティプラン
## SOKA CITY COMMUNITY PLAN

## 草加西部地区



草加西部地区コミュニティプラン　２０２３年１１月
発行：草加市都市整備部都市計画課
〒340-8550　埼玉県草加市高砂１丁目１番１号
TEL：048-922-1802　FAX：048-922-3145

# もくじ


## Ⅰ　はじめに

1．「コミュニティプラン」とは？　2

2．コミュニティプランをつくる際に大切にしてきたこと　2

3．コミュニティプランが生まれるまで　3

## Ⅱ　地区がめざすミライ

1．地区の現状と課題　6

2．地区の将来イメージ　１０

3．コミュニティプランの柱となるテーマ　１２

## Ⅲ　ミライの実現に向けたプロジェクト

1．プロジェクトページの見方・使い方　１６

2．ミライの実現に向けたプロジェクト　１７

## Ⅳ　プロジェクトの実現に向けて

1．プロジェクトを実現していくために　４８

2．実現のための話合いの場「円卓会議」　４８

3．プロジェクトを実現していく４つのポイント　５１

## Ⅴ　市民と市の協働のまちづくりをめざして

1．プロジェクトに関連する市の施策・事業　６２

### テーマ１　つながり・支え合い

プロジェクト０１　ボランティア人口を増やすための仕組みづくり　１８

プロジェクト０２　リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援　２０

プロジェクト０３　ふらっと集まって暮らしや地域のことを話せる場づくり　２２

プロジェクト０４　多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり　２４

### テーマ２　安全・安心

プロジェクト０５　安全なまちをめざした地域の見守り運動　２６

プロジェクト０６　公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント　２８

### テーマ３　にぎわい・交流

プロジェクト０７　誰でも気軽に立ち寄れる場づくり　３０

プロジェクト０８　草加西部地区の魅力 PR　３２

プロジェクト０９　地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催　３４

プロジェクト１０　地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会　３６

プロジェクト１１　母国の文化や言葉の交流による関係づくり　３８

### テーマ４　自然・文化

プロジェクト１２　地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出　４０

プロジェクト１３　地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり　４２

プロジェクト１４　多様な農業のあり方による『農がある風景』の保全　４４

# I　はじめに

1．「コミュニティプラン」とは？
2．コミュニティプランをつくる際に大切にしてきたこと
3．コミュニティプランが生まれるまで

## 1.「コミュニティプラン」とは？

草加市では、平成 29 年に今後 20 年間のまちづくりの指針となる**『まちづくりの基本となる計画』**を作成しました。その中で、市内を 10 地区のコミュニティブロックに分け、地区ごとの将来像となる『まちづくり方針』を掲げています。

コミュニティプランは、みなさんが住む草加西部地区がめざすミライと、それを実現するためのアイデアをみんなで出し合い、まちづくりのアクションプランとしてまとめたものです。プランの中には、みなさんの生活の中で、一人でも、仲間と一緒にでも始められる、まちをより良くしていくためのアイデアが詰まっています。

まちづくりは特別なことではなく、日常のちょっとした気づきから、小さな一歩を踏み出すことで始めることができます。そして、一人ひとりの想いで始めた取組が重なり、共感する人を増やし、活動の輪を広げ、新しい地域活動やまちづくりにつながっていきます。

そんなミライが広がっていくことを願って、市民・行政など地域に関係する人たちの「共創」でこのプランをつくりました。このプランが一人ひとりにとって、自分の住む地域に興味を持ち、考え、活動するきっかけとなりますように。

このプランを片手に、草加西部地区のミライを一緒につくりませんか？

## 2．コミュニティプランを作る際に大切にしてきたこと

私たち草加西部地区では、次のポイントを大切に、このプランをまとめました。

### ① **草加西部地区ならでは**の**宝モノ**や**問題モノ**から話し合う

地区別懇談会などでの話合いの中では、草加西部地区ならではの宝モノ（人・想い・つながり・場所・歴史等）や、まちの問題モノ（抱えている課題）などをみんなで出し合い、プランの中に盛り込みました。

### ② 「住んで良かった」「住み続けたい」と思える**将来イメージを共有**する

①の地区の宝モノ・問題モノを踏まえながら、まちの将来がどのような姿になってほしいか（将来イメージ）を考え、その実現のために必要な取組を考えました。

### ③ 小さな一歩から、協力の輪を広げ、本当に**実現していくステップまで**描く

一人ひとりの「こうなったらいいな」「こんなことがしたい」という想いが、行動につながるよう、プロジェクト毎に実現に向けた具体的なステップをまとめました。



## 3．コミュニティプランが生まれるまで

コミュニティプランの作成に当たっては、公募で集まった地域のみなさんを中心に、令和３年度から２年間にわたって話合いを重ねてきました。
また、令和４年度の後半には、２つのモデルプロジェクトを実際に試行し、その成果や課題を踏まえながら、まちのミライを実現するためのプランをとりまとめました。

**令和３年度**

**インタビュー**
まちで活動している方を中心にインタビュー、プラン作成を周知するとともに、まちづくりに関心が高い人を発掘

**キックオフイベント**

『場づくりからはじまる　人口減少社会に対応した　魅力ある次世代のまちづくり』
【講師】　東京大学 まちづくり研究室教授 小泉　秀樹　氏

**第１回 地区別懇談会**
テーマ：**地区の課題と将来像を考えよう**

**令和４年度**

**第２回 地区別懇談会**
テーマ：**地域でできる取組・必要な取組を考えよう**

**第３回 地区別懇談会**
テーマ：**プロジェクトを具体化しよう①**

**第４回 地区別懇談会**
テーマ：**プロジェクトを具体化しよう②　モデルプロジェクトを選ぼう**

**モデルプロジェクトの試行（2022.12 に開始）**

プロジェクト０８：草加西部地区の魅力ＰＲ

プロジェクト１２：地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出

**第５回 地区別懇談会**
テーマ：**プロジェクトの取りまとめ　コミュニティプランの進め方について**

**タウンミーティングの開催（取組成果の報告）**

**令和５年度：コミュニティプランの最終確認**

**コミュニティプラン策定**

# II　地区がめざすミライ

1．地区の現状と課題
2．地区の将来イメージ
3．コミュニティプランの柱となるテーマ

# １．地区の現状と課題

地区には大きなことから小さなことまで、たくさんの良いところと改善すべきところがあります。
ここでは、地区別懇談会やインタビューの中で、地域の皆さんからいただいた意見を「地区の現状と課題」として整理し、掲載しています。

枠線あり・・・地区の現状や良いところ
枠線なし・・・地区の課題や改善点

## 子どもや子育てに関すること

子どもが多い地区である

子どもがいる若い世帯は防災訓練などにも積極的である

昔よりも子ども会の活動に参加してくれる方が減っている
子どもが楽しめる場をつくりたい

子どもたちが地元に愛着を持てていないのではないかと感じる

子どもたちや親子で遊べる場所・公園が少ない

地区内の子ども(地区／草加市)

0-5才 1,135人 / 10,316人
6-14才 2,045人 / 18,553人

参照：住民基本台帳（令和４年１月時点）

## 少子高齢化に関すること

高年者が相談できる場所が多くある

あいさつ活動や地域のゴミ拾い活動をしている
高年者グループがあり、とても元気な高年者が多い

これからさらに高年者が増えるなかで、触れあえる機会が続いていくといい

地区内の高年者(75歳以上)

H28年 2,684人
R17年 3,366人

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成29年）

独居者が増えているので、独りにならないように、人との交流が大事である

若い世代の地域活動の場が少なく、
町会・自治会役員もあまり引き受けてもらえない

## にぎわいや交流に関すること

助け合いや、声を掛け合う雰囲気が良い地区である

氷川コミュニティセンターの利用率が高く、地域活動が活発である

ハロウィンウォークイベントや花いっぱい運動など、
多種多様な活動をしている団体が多くある

草加駅前にはにぎわいがある

地区内の町会数 13組織

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成29年）

地区内の外国籍市民数 487人 / 963人
H25年 R5年

参照：住民基本台帳（令和４年１月時点）

多世代交流の機会が不足している

家以外でゆっくり過ごせるサードプレイスとなる場所や、
公共施設など気軽に集まれる場が少ない

外国人の方が増えており、共存・協力していく仕組みをつくることが大切である

せっかく近くに獨協大学があるのにコミュニケーションが乏しい。連携したい

地域の活動が行える場所が増えた方がいい
利用しやすい方法も要検討

将来転居してしまうような
賃貸住まいの人・単身者が多い

閉店する店が少しずつ増え、
にぎわいが減っている

地区住民による課題解決の場がない

## 移動や交通に関すること

駅や病院が近く、コンパクトなまちである

草加駅には急行が止まるため便利である

国道４号が近いので車が利用しやすい

狭い道が抜け道として使われるなど、車の交通量が多く、運転が荒い人が多い

狭い道や歩道、見通しが悪い道、舗装がガタガタのところが多い。安心して歩ける歩道がほしい

歩きスマホを多く見かける

草加駅の乗降客数（1 日）
**73,516 人**

自転車を停められる場所が少ない

東武鉄道（伊勢崎線）乗降客数ランキング **4 位**

参照：東武鉄道公式サイト（令和３年）

自転車のマナーが悪い。交差点で自転車が止まらない

## 生活環境に関すること

スーパーや飲食店が多くあり、通院や買い物環境など、生活全般の利便性が高い

特に氷川町は駅に近いので利便性が良い

国道４号より西側は利便性が低い

街中のゴミは少ないが、一部の集合住宅のゴミ置き場は無法地帯と化していると感じる

治安が悪いと感じる場所がある。草加駅西口の雰囲気づくりが課題

区画整理事業が進んでおらず、道が狭いため、防災上の課題がある

地区内の医療機関 **20 箇所**

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成 29 年）

マンション、アパートが多くなってきている空き家も増えている

地区内の空き家数 **152 軒**

参照：草加市空家対策計画（平成 31 年）

現状は街灯が少ないので、夜も安心できる街にしたい

## みどりや景観に関すること

低層の住宅が中心となっており、富士山が見えるなど景観が良い

農家の庭先販売が多く、新鮮な野菜が買える

駅が近いのに、緑や農地・畑が多く残っており、四季が感じられる

地区内のみどり

生産緑地面積 **6.75 ha**

公園面積 **0.98 ㎡／人**

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成 29 年）

ボール遊びや花火などが禁止されていて、自由に遊べる公園が少ない

人工的な公園ばかりで、自然を楽しめる公園が少ない

## 歴史や文化に関すること

神社やお寺、川、商店街、農家、子どもの多さなど、草加西部地区の地域資源や特色をにぎわいづくりに生かしたい

地区内の市指定文化財 **2 箇所**（令和４年時点）

駅を中心に、文化施設が集中しており、神社やお寺等の旧跡、石仏・小祠などが残っている

地区内の埋蔵文化財包蔵地 **2 箇所**（令和４年時点）

せんべい屋など歴史ある店が残っている

細い道などを見ると農村の名残を感じられて、路地に素朴さが残っている

軒先でコミュニケーションがとれる駄菓子屋や外で遊べる空間が昔より減った印象がある

## 2．地区の将来イメージ

地区の良いところを生かし、問題を改善していくことで、地区の様々な場所で生まれる将来イメージを描きました。

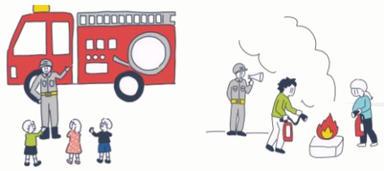
子ども達の成長を
地域の大人が見守る

多世代・多属性の人が集い、
支え合える場所がある

つい足を伸ばしたくなる
にぎわいの空間がある

暗い時間帯でも
安心して過ごせる

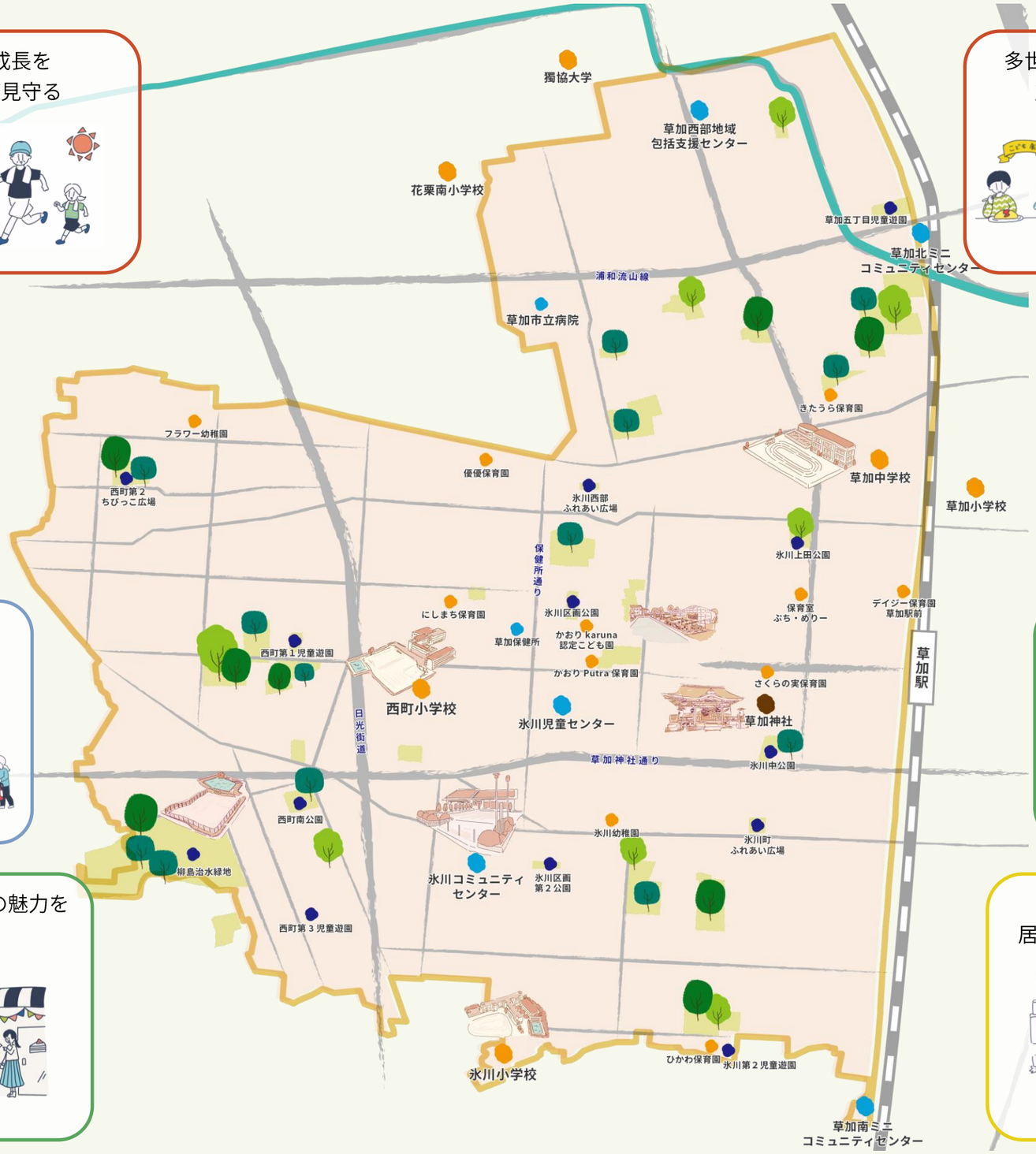
防災への意識が高く、
地域のつながりが強い



住宅地と農地が共存し、
みどりに親しみがある

まちの自然や歴史の魅力を
感じられる

ふらっと立ち寄れる
居心地の良い場所がある



## ３．コミュニティプランの柱となるテーマ

ここでは、地区の現状と課題、将来イメージとのつながりを踏まえて、「コミュニティプランの柱となる４つのテーマ」を設定しました。
そして、そのテーマごとの『地区がめざすミライの姿』を実現するために、１４のプロジェクトを立案しました。

**地区の現状と課題**

- 子ども・子育て
- 少子高齢化
- にぎわい・交流
- 移動・交通
- 生活環境
- みどり・景観
- 歴史・文化

**コミュニティプランの柱となる４つのテーマ**

### テーマ１：つながり・支え合い

地区がめざすミライの姿

**人と人との支え合いの関係や居場所がある**

多様な世代や属性の人々が抱える問題や困りごとに対して、市民同士が協力し、助け合うことで、みんなが暮らしやすい地区をめざします。

### テーマ２：安全・安心

地区がめざすミライの姿

**市民が協力して身の回りの危険に立ち向かう**

身近に迫る災害や犯罪といった危険に対して、地域が連携して日常的に備えることで、毎日を安心して過ごすことができる地区をめざします。

### テーマ３：にぎわい・交流

地区がめざすミライの姿

**多様な世代や団体が連携して、にぎわいを生み出す**

様々な分野の人々が連携していくことで、地区の内外に魅力を発信し、にぎわいや活気がある地区をめざします。

### テーマ４：自然・文化

地区がめざすミライの姿

**地区の貴重な歴史・自然資源を守り、育む**

地区の貴重な資源である農地や神社仏閣など資源を守っていくための価値観を育み、後世に引き継いでいける地区をめざします。

**ミライの実現に向けたプロジェクト**

- ０１　ボランティア人口を増やすための仕組みづくり
- ０２　リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援
- ０３　ふらっと集まって暮らしや地域のことを話せる場づくり
- ０４　多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり

- ０５　安全なまちをめざした地域の見守り運動
- ０６　公園や空地を活用した子どもが楽しめるイベント

- ０７　誰でも気軽に立ち寄れる場づくり
- ０８　草加西部地区の魅力 PR
- ０９　地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催
- １０　地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会
- １１　母国の文化や言葉の交流による関係づくり

- １２　地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出
- １３　地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり
- １４　多様な農業のあり方による『農がある風景』の保全

# III　ミライの実現に向けたプロジェクト

１．プロジェクトページの見方・使い方
２．ミライの実現に向けたプロジェクト

# １．プロジェクトページの見方・使い方

ここでは、１８ページ以降に掲載しているプロジェクトページの「見方」と、本冊子の後半の内容も含めた「使い方」をご説明します。
地区の様々な場所で行われる、多様な主体によるプロジェクトを掲載していますので、ご自身が『できること』や『関わりたいこと』を探してみましょう。

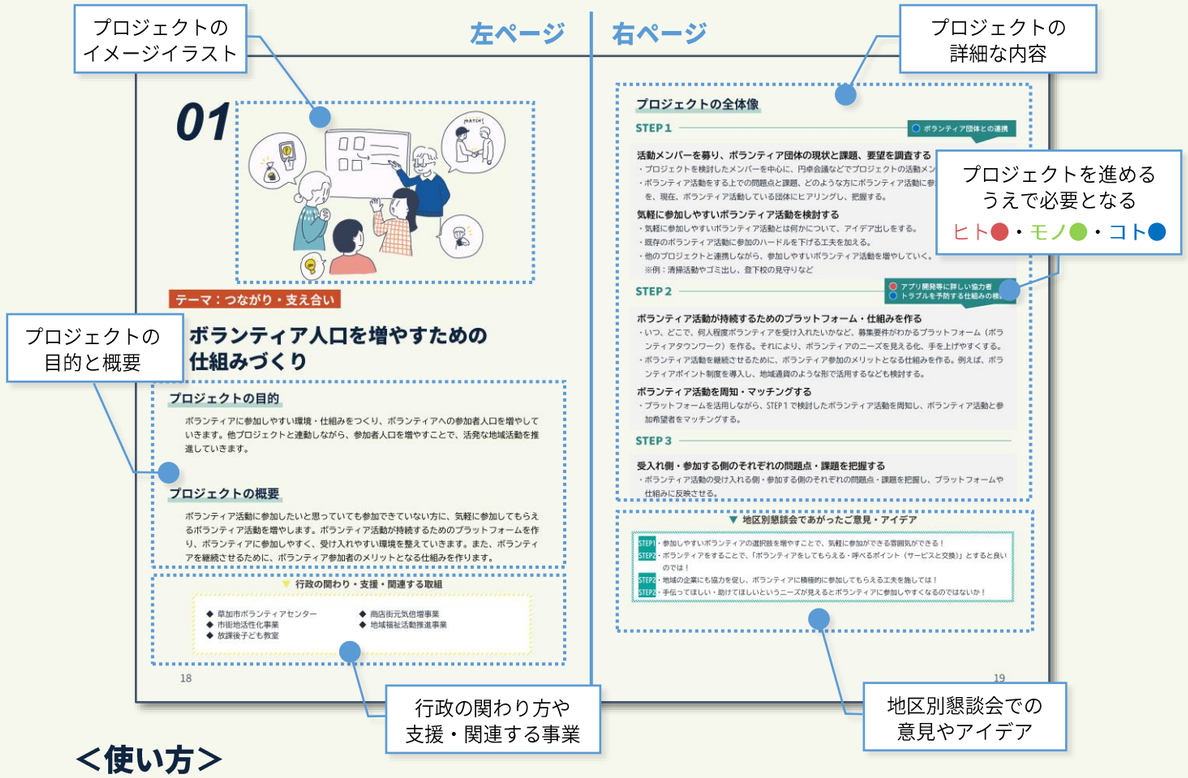
## ＜プロジェクトページの見方＞

下の図のように、１つのプロジェクトについて見開き２ページで掲載しています。

**① まずは左ページを読み、プロジェクトの概要を確認**

**② 次に右ページを読み、プロジェクトの詳細な進め方を確認**

という流れで読み進めてください。




## ＜使い方＞

読み進めるなかで、『主体的に参加したい！』『取組をサポートしたい！』というプロジェクトが見つかったら、

**① 円卓会議に参加し、プロジェクトの内容について話し合ってみる**

**② プロジェクトページの内容をもとに、51～59 ページの情報を活用して取組を進める**

54～57 ページには、取組を進める上で参考となる様々な情報を掲載しています。プロジェクトの実現性・持続性を高めるためのツールとして活用してください。



# ２．ミライの実現に向けたプロジェクト

次ページ以降では、「地区がめざすミライの姿」を実現するために、地区別懇談会での話合いによって生まれた１４のプロジェクトの詳細について掲載しています。
このプロジェクトの一つひとつは、地域のみなさんのまちへの想いや『こんなことをやってみたい！」といった意欲から生まれたものです。

## テーマ１　つながり・支え合い

プロジェクト０１　ボランティア人口を増やすための仕組みづくり
プロジェクト０２　リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援
プロジェクト０３　ふらっと集まって暮らしや地域のことを話せる場づくり
プロジェクト０４　多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり

## テーマ２　安全・安心

プロジェクト０５　安全なまちをめざした地域の見守り運動
プロジェクト０６　公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント

## テーマ３　にぎわい・交流

プロジェクト０７　誰でも気軽に立ち寄れる場づくり
プロジェクト０８　草加西部地区の魅力 PR
プロジェクト０９　地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催
プロジェクト１０　地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会
プロジェクト１１　母国の文化や言葉の交流による関係づくり

## テーマ４　自然・文化

プロジェクト１２　地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出
プロジェクト１３　地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり
プロジェクト１４　多様な農業のあり方による『農がある風景』の保全

# 01

テーマ：つながり・支え合い

# ボランティア人口を増やすための仕組みづくり

## プロジェクトの目的

ボランティアに参加しやすい環境・仕組みをつくり、ボランティアへの参加者人口を増やしていきます。他プロジェクトと連動しながら、参加者人口を増やすことで、活発な地域活動を推進していきます。

## プロジェクトの概要

ボランティア活動に参加したいと思っていても参加できていない方に、気軽に参加してもらえるボランティア活動を増やします。ボランティア活動が持続するためのプラットフォームを作り、ボランティアに参加しやすく、受け入れやすい環境を整えていきます。また、ボランティアを継続させるために、ボランティア参加者のメリットとなる仕組みを作ります。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 草加市ボランティアセンター
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ 放課後子ども教室
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

● ボランティア団体との連携

**活動メンバーを募り、ボランティア団体の現状と課題、要望を調査する**

・プロジェクトを検討したメンバーを中心に、円卓会議などでプロジェクトの活動メンバーを募る。

・ボランティア活動をする上での問題点と課題、どのような方にボランティア活動に参加してほしいかなどを、現在、ボランティア活動している団体にヒアリングし、把握する。

**気軽に参加しやすいボランティア活動を検討する**

・気軽に参加しやすいボランティア活動とは何かについて、アイデア出しをする。

・既存のボランティア活動への参加ハードルを下げる工夫をする。

・他のプロジェクトと連携しながら、参加しやすいボランティア活動を増やしていく。
※例：清掃活動やゴミ出し、登下校の見守りなど

### STEP 2

● アプリ開発等に詳しい協力者
● トラブルを予防する仕組みの検討

**ボランティア活動が持続するためのプラットフォーム・仕組みを作る**

・いつ、どこで、何人程度ボランティアを受け入れたいかなど、募集要件がわかるプラットフォーム（ボランティアタウンワーク）を作る。それによりボランティアのニーズを見える化し、手を上げやすくする。

・ボランティア活動を継続させるために、ボランティア参加のメリットとなる仕組みを作る。例えば、ボランティアポイント制度を導入し、地域通貨のような形で活用することなどを検討する。

**ボランティア活動を周知・マッチングする**

・プラットフォームを活用しながら、STEP 1 で検討したボランティア活動を周知し、ボランティア活動と参加希望者をマッチングする。

### STEP 3

**受け入れ側・参加する側のそれぞれの問題点・課題を把握する**

・ボランティア活動の受け入れる側・参加する側のそれぞれの問題点・課題を把握し、プラットフォームや仕組みに反映させる。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP1・参加しやすいボランティアの選択肢を増やすことで、気軽に参加ができる雰囲気ができる！
STEP2・ボランティアをすることで、「ボランティアをしてもらえる・呼べるポイント」と交換できると良いのでは？
STEP2・地域の企業にも協力を促し、ボランティアに積極的に参加してもらえる工夫をしては！
STEP2・手伝ってほしい・助けてほしいというニーズが見えるとボランティアに参加しやすくなるのでは！

# 02

テーマ：つながり・支え合い

# リタイア世代による<br>子どもスポーツ教育の支援

## プロジェクトの目的

指導者が不足していて、部活動や課外活動ができていない子どもたちのために、子どもたちが安心して運動ができる環境をつくり、地域でスポーツ教育の推進につなげていきます。また、高年者などがスポーツ教育に関わることで、生きがいづくりにつなげていきます。

## プロジェクトの概要

スポーツ教育のニーズの把握と担い手の発掘をしながら、高年者が生きがいを持って、公園などで子どもたちの遊びや運動の見守り・支援をするための仕組みを作ります。取組を実行し、地域に根付かせることで、各種団体とも連携したスポーツ教育の推進を進めていきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ スポーツ指導者養成・団体育成事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 学校応援団



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**子どもたちのスポーツ教育のニーズの把握と担い手の発掘をする**

・円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。小中学校、教育委員会などの協力のもと、子どもたちのスポーツ教育のニーズを把握する。未就学児のニーズも把握する。

・地域の方々と連携しながら、子どもたちに運動を教えたい高年者などの担い手を発掘する。

### STEP 2

● 運動をする場所の確保

**子どもたちが安心して遊びや運動をするための環境を考える**

・STEP 1 の内容を踏まえて、子どもたちの対象年齢や支援内容などを検討する。

・安全管理の観点から教育施設などとの連携が困難な場合は、公園などで取組を実施することも検討する。使用する場所（公園など）の許可や、実際に活用できる時間帯などの具体的な調整を行う。

### STEP 3

● 地域で活動したい高年者などの協力者

**運動見守り支援員を募集・配置する**

・企画内容をもとに要件を定め、STEP1 で発掘した方々を中心に「運動見守り支援員」を募集する。

・高年者が子どもたちの運動や遊びを見守り・支援することを目的とした「運動見守り支援員」を公園などに配置する。

### STEP 4

● 安全管理対策(ケガなどの防止)
● 取組を周知するためのチラシの作成・印刷

**取組を周知・実行する**

・町会・自治会や学校、地域活動団体等に協力を仰ぎ、取組を周知する。

・実行する際は、対象によって支援内容を工夫する。例えば未就学児や小学校低学年などを対象とする場合は、運動見守り支援員が走り方や逆上がり、うんていなど簡単な運動を教える。

### STEP 5

**継続的に推進し、スポーツ教育につなげる**

・簡単な運動や遊びからはじまり、徐々にレベルアップをしていくことで、地域に取組を広げ、スポーツ教育につなげていく。

・取組の継続的な推進に当たっては、各種団体との連携を模索しながら、取り組んでいく。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・高年者が子どものスポーツ教育に関わることで、生きがいづくりにつながるのでは！

STEP2・いきなりスポーツ教育と言っても難しい。高年者などが駆けっこやボール遊び、逆上がりなど簡単なことを教えることから始めては！

STEP2・子どもたちだけで外で遊ばせるのは不安といった声があるため、大人が見守りをするだけでも意味がある！

# 03

テーマ：つながり・支え合い

## ふらっと集まって暮らしや地域のことを話せる場づくり

### プロジェクトの目的

地域の中に気軽に立ち寄れる場所を増やすことで、人と人が身近な場所で交流・つながりが得られるきっかけをつくり、おしゃべりやちょっとした相談の中から、生活の悩みや困りごとの解決の糸口が見つかる機会を増やします。また、空き家などを生かした居場所づくりによって、使えるのに使われていない場所を発掘し、活用につなげていきます。

### プロジェクトの概要

空き家など、使えるのに使われていない場所を活用し、地域の住民や学生、子ども達、高年者、地元の企業、社会福祉協議会など、様々な人が参加し、運営に関わることができる居場所を運営します。またその中で、様々な年代や分野の人が気軽に集うことができる企画を実施したり、悩みや問題の解決の糸口がつかめるような情報や相談の機会を提供していきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ 都市計画マスタープラン推進事業
- ◆ 地域介護予防活動支援事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ 創業支援事業
- ◆ 空き家バンク
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 子育て支援講座



### プロジェクトの全体像

#### STEP 1

● 地域の人へのヒアリング（ニーズを明らかにする）

**活動メンバーを集めて、地域の中の居場所に関するニーズを探る**

・コミュニティプランの内容を広く地域の中で周知し、地域の集まり等を通じて、居場所づくりや空間活用・地域コミュニティなどに関心のあるメンバーを集める。

・活動メンバーを中心に、地域の中で居場所を必要としている人や、地域の中で困りごとを抱えていたり孤独を感じている人などがどの程度いるのか、現状を把握する。

#### STEP 2

● 居場所探しや運営に関わる協力者
● 居場所として使えそうな場所の選定

**カフェのように気軽に集える居場所をめざして、使えそうな場所を探す**

・カフェのように気軽に行けて、間口の広い（誰にとっても入りやすい）場所をめざして、市内外の空き家活用や居場所づくりの事例を調べる。

・メンバーや関係者の持つつながりや情報網を生かして、地域の中で候補となりそうな場所や物件を探す。地域の中にある公共施設（氷川コミュニティセンターなど）の活用も検討する。また併せて、多様な参加の形の１つとして、オンラインでの開催や参加の方法も検討する。

**居場所の企画・運営に協力してくれる仲間を増やす**

・活動に協力してくれる人がいると思われる地域内の団体・組織などに働きかけて、協力者を募る。またその中で、「無理なくできること・得意なことを中心に協力してもらう」、「協力してもらったことがどの程度役に立ったかを伝える」など、協力者のモチベーションが継続・向上するような工夫をしていく。

#### STEP 3

● 居場所運営のボランティア活動を有償とするかどうかの検討

**居場所づくりの事業としての全体像をまとめる**

・居場所開催の頻度（常設か、隔週かなど）や、より幅広い人材（地域の大学生等）を巻き込んだ形での運営・開催について検討する。

・活動が継続的なものになるように、場所の使用料や協力者への報酬などを含め、どのようにプロジェクト全体の採算性を確保するかを検討する。

#### STEP 4

● 実際に地域で居場所づくりを経験したことがある協力者・助言者

**居場所の運営を実際に行う**

・実際に地域の中で、誰でもふらっと立ち寄れて、気軽におしゃべりや交流ができるような居場所を運営する。

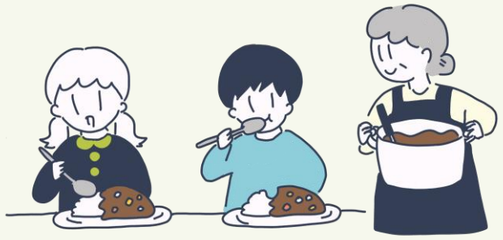
・活動内容やテーマはあえて分野などで分けずに、様々な人が様々なことをできたり話せたりする場にする。

・パンやクッキー・野菜・コーヒーなどを販売するなど、通りすがりの人が気軽に足をとめて立ち寄れるような仕掛けをして、人を呼び込む。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・市内では「みんなの広場 あきちゃんち」や「さかえーる」などの空き家活用の事例がある！
STEP3・採算性等を考えると、居場所は常設にこだわらずに週末の 2～3 時間限定で開いても良いのでは？
STEP4・「モノを売る」「モノを作る」といった要素を入れると、人が集まるようになる！

# 04



テーマ：つながり・支え合い

## 多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり

### プロジェクトの目的

地域の身近な場所に、子どもや子育て世代、高年者や多国籍の方などが、つながり支え合える居場所をつくります。一人ひとりの居場所づくりを支え合い、子ども達が幸せに暮らせることを目標に、世代・国籍・文化を越えた居場所をつくることによって、地域交流の輪を広げていきます。

### プロジェクトの概要

子どもや高年者、外国の方など誰もが気軽に集まれる場として、氷川コミュニティセンターで年２～３回、子ども･子育て世代向けのイベントや、高年者向けのイベントを実施します。吸引力があり、地域コミュニティの中心的な場となるよう、マルシェや子ども食堂のような企画を交え、試運転からはじめて徐々に地域に定着させていきます。

**▼ 行政の関わり・支援・関連する取組**

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 空き家バンク
- ◆ 生活支援体制整備事業
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ 都市計画マスタープラン推進事業
- ◆ 地域包括支援センター委託事業
- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 認知症サポーター養成講座
- ◆ ふれあい・いきいきサロン



### プロジェクトの全体像

**STEP 1**

● 居場所づくりの協力者（企画づくり・運営補助・情報発信が得意な方など）

**ノウハウをもつ協力メンバーを募集する**

・円卓会議のメンバー、知人、町会・自治会や商店会、活動団体等に声かけし、活動メンバーを集める。

・地域のみなさんが持っている特技や経験･ノウハウを持ち寄る。中心メンバーだけではなく、イベント単発でお手伝いいただける若い人や大学生、外国の方も含めて広く募集する。

**STEP 2**

● 吸引力があり、かつ参加のハードルの低い企画の検討

**できることから、交流の場を企画する**

・取組を継続させるため、最初は無理なくできることから企画する。居場所に必要なのは人を集める吸引力であり、最初から大勢を集めることにこだわらず、集まったメンバーから関係性を広げていく。

・中心メンバーの得意分野に応じて、子どもの集まり、高年者の集まり、マルシェ、子ども食堂を企画する。

**地区住民に身近なイベントの場所を確保する**

・みんなが気軽に集まれる場所、子どもが歩いて来られる場所が望ましく、候補地として最初は氷川コミュニティセンターを活用する。

・コミュニティセンターのほかに、町会・自治会会館、小学校の空き教室等の活用を検討する。

**STEP 3**

● クラウドファンディングなど資金調達方法の検討

**イベントの試運転から始め、徐々に地域に定着させる**

・年に２～３回実施し、各世代向けに企画を変えて、最初は子ども･子育て世代向けのイベント、次は高年者向けとするなど工夫を凝らす。

・野菜販売のマルシェの企画であれば、当番制にしたり場所を駅前に変えたりして、少しずつ活動の幅を広げる。「第二日曜日はそこで何かやっている」というような場として定着させる。

**STEP 4**

**より身近な居場所づくりへと展開していく**

・将来的には、みんなが気軽に集まれる場所、子どもが歩いて来られる場所で実施する。

・一つひとつの規模が小さくても、毎週どこかに居場所があることをめざす。

・活動の様子は SNS で発信し、少しずつ認知度を高めて地域との関係性を強めていく。

**▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア**

STEP1・外国人のカレー屋さんなどに「母国の遊びや言葉を教えてほしい」と参加を呼びかけては？
STEP2・高年者が子ども食堂を手伝い、子どもと親世代が集まれば、それだけで多世代交流が実現する！
STEP2・「平成塾」のように学校を使用してはどうか。空き教室を使った子ども食堂の事例もある。
STEP2・居場所を利用する方が、ときには居場所を運営する役割も担えるような関係性をつくりたい。
STEP3・街バルのようなやり方（木札を購入いただいてお得なサービスを提供する）もできるかも！

# 05

テーマ：安心・安全

# 安全なまちをめざした地域の見守り運動

## プロジェクトの目的

駅を利用する人、住んでいる人にとっての安全・安心のために、見守り運動を推進します。また、日常からできる小さな取組から始めることで、地域全体で安心・安全なまちにしようという雰囲気づくりにつなげていきます。

## プロジェクトの概要

地域のどんな方でも気軽に取り組める夜間ライト点灯による見守り運動を実施します。地域の見守り運動を推進していくための体制づくり、雰囲気づくりを行います。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ こどもひなんじょ
- ◆ 自主防犯活動・自主防犯活動補助金
- ◆ 巡回指導員（警察 OB）によるパトロール活動
- ◆ 家族介護支援事業
- ◆ スクールガード・リーダー



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**夜間ライト点灯による見守り運動を企画する**

・円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。スマートフォンや懐中電灯などのライトを点灯しながら夜間に歩くことで、まちなかの見守り運動をする「(仮称)ホタルの安心・安全運動」を企画する。

・小中高生が塾の帰り道などに安心して帰れるように夜間の時間帯で検討する。時間帯と対象エリアを決めることで、協力してくれる団体等を決めやすくする。

### STEP 2

● 取組を周知するためのチラシやポスターの作成・印刷

**取組内容を周知・協力者を募る**

・町会・自治会や学校、地域活動団体などに協力を仰ぎ、企画の実現をめざす。

・駅前などでチラシを配り、SNS なども活用して、企画を周知し、協力者を募る。

### STEP 3

**夜間ライト点灯による見守り運動を実施する**

・まずは期間を定めて実施する。

・「なんでみんなライトをつけているのだろう」「こんな見守り運動をやっているんだ」と興味関心を持ってもらうことで、地域の防犯意識向上につなげる。

### STEP 4

**取組の改善・体制の構築をする**

・協力者や地域の意見を募り、より良い取組へと改善していく。

・協力者と連携し、体制を構築しつつ、継続的な見守り運動の推進に向けた企画検討をする。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP1・小中高生が塾の帰りなどに安心して帰れるような環境づくりが必要では？

STEP1・仕事帰りのサラリーマンや買い物途中の主婦などが、スマートフォンでライトをつけていろんなところを歩くことで、街中を照らす活動になるのでは？

STEP3・日常的にできる小さな取組を積み重ねることで、地域全体で安心・安全なまちにするという雰囲気ができると思う！

STEP4・見守り運動のスポーツ化や終了後に食事ができるようにするなど、参加のメリットを生むことで、継続的な取組につながると思う！

# 06

テーマ：安心・安全

# 公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント

## プロジェクトの目的

子どもを主な対象とした防災イベントを通じて、親子で防災について学び、自ら防災のことを考える機会をつくるとともに、多世代交流の実現や一人ひとりが地域に関心を持つきっかけにします。また、住民同士のつながりを強めることで、将来的にはまちづくりを主体的に進めていけるような地域コミュニティの力を育んでいきます。

## プロジェクトの概要

地元の学校や避難所運営委員会等と連携しながら、地域の子ども達をターゲットに、工夫を凝らした防災イベントを企画・実施します。例えば、学校を使って防災の体験をする「防災キャンプ」を企画・実施するなど、「子ども」と「防災」をキーワードに様々なイベントを継続的に実施・発展させていきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 自主防災活動等進事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 危機管理体制整備事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

● 子ども会育成者連絡会議が行っている「学校でキャンプ」を参考

**関心のあるメンバーで集まり、企画の全体像や将来像などを話し合う**

・防災や子ども・子育て支援、多世代交流などに関心のある人や関係者が、円卓会議のような場を活用して話合いの場を設ける。

・地元の消防団や町会・自治会、子ども会育成者連絡会など、日頃から地域で防災の活動に関わっている組織や関係者にも参加してもらえるように呼びかける。

・話合いの場では、防災のことだけでなく、この取組を通して将来的にどのような地域になってほしいかといったゴールまでを含めて、話合いと共有をする。

### STEP 2

● 避難所となる地元の小学校や避難所運営委員会の委員と連携

**防災イベントの対象者像やこだわりポイントなどを具体化する**

・STEP1 で集まったメンバーを中心に、子どもが楽しめる内容で、かつ子育て世帯だけでなく、高年者を含む多様な世代・立場の人など、様々な世代が参加できるような企画をつくる。

・例えば「訓練中に不意打ちで電気が消える」「会場をお化け屋敷のような雰囲気にする」「かまどベンチでピザパーティーをする」「消防車や起震車を呼ぶ」など、子どもの興味を引く内容にする。

**防災イベントを企画する**

・初回のイベントとして、学校の体育館に親子で宿泊体験しながら避難所の生活を疑似体験し、避難所の運営にも協力するような防災イベント「（仮称）防災キャンプ」を企画する。

・企画に際して、例えば「学校を使う際にできること・できないこと」を予め確認した上で検討する。

### STEP 3

**「（仮称）防災キャンプ」を実施する**

・「（仮称）防災キャンプ」を小学校の体育館で、その他の関連する防災イベントは公園や柳島治水緑地等を活用して実施する。実施に当たっては、地元の学校（避難所）や避難所運営委員会等とも連携して行う。

・防災イベントを通して、災害時の避難所運営のトレーニングや検証も行う。

### STEP 4

● 取組を地区内の他の防災訓練や子ども向けイベントに波及

**防災イベントを振り返り、活動をさらに継続・発展させる**

・実施に関わったメンバーや、学校や避難所運営委員会などの関係者が集まり、イベントの参加者層や感想がどうであったか、交流や地域への関心の高まりにつながったかなどの検証や、実際の避難所運営に向けての検証といった視点で振り返りを行う。

・イベントをシリーズ化して地域の日頃からのイベントに組み込む。一回限りのイベントに終わらせず継続的に開催し、日常に防災を溶け込ませることで、災害時のリスクを忘れないような形につなげる。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP1・風水害はある程度予測ができるため、地震（突発的な災害）に限定した訓練にしよう！
STEP2・「いざという時には自分たちで避難所を運営するんだ」という意識につながると良いのでは？
STEP4・防災イベントは、防犯などのより身近な地域課題に気づき、まちに関わる入口（きっかけ）になる。

# 07

テーマ：にぎわい・交流

# 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり

## プロジェクトの目的

目的を持たずにふらっと立ち寄ることができて、「あそこへ行けばいつも何かやっている」という場をつくることで、若者から高年者まで、世代を問わず様々な方の居場所を確保し、地区のにぎわいを創出します。

## プロジェクトの概要

まずはその時々でテーマを決めて、小さなイベントを試行することから始めます。試行を繰返す中でニーズを把握し、場所やイベント内容を徐々に絞り、場を定着させていきます。最終的には場所を固定化し、誰でも気軽に立ち寄れる居場所をつくります。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 生活支援体制整備事業
- ◆ 子育て世代包括支援センター運営事業
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 地域包括支援センター委託事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ ふれあい・いきいきサロン



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**「誰でも気軽に立ち寄れる場」のイメージを共有する**

・円卓会議を通じて、中心メンバーと賛同者で、最終的な場のイメージについて話し合い、認識を共有する。

### STEP 2

● 会場の確保

**場づくりに向けたイベントを企画する**

・プロジェクトの第一歩としての小さなイベントの試行に向けて、STEP 1 のメンバーでイベントのテーマと内容を検討する。その際、食・本・音楽・写真など、世代を問わず参加できるテーマを検討する。

・会場としてカフェ等のお店やコミュニティセンター等の公共施設が考えられるが、いずれも若い世代の参加を促すために、おしゃれで居心地が良い雰囲気づくりを大切にする。

### STEP 3

● チラシの作成・印刷
● SNS の開設・投稿

**協力者を集めてイベントを具体化し、周知する**

・イベントのテーマと内容を踏まえ、協力いただきたい個人や団体への声掛けを行い、協力者を集めてイベント内容を具体化する。その際、協力可能な曜日や時間帯、専門スキル等は人によって異なるため、適材適所で役割分担して進める。

・イベントチラシの作成や SNS の開設・発信等により、イベントの周知を行う。

### STEP 4

**場づくりに向けたイベントを試行する**

・STEP 3 までの企画を踏まえ、小規模なイベントを試行する。その中で、参加者数や年齢層、属性、参加者の反応などを記録し、ニーズを把握する。

・プロジェクトに興味関心がありそうな方へは、適宜声掛けをして仲間を増やしていく。

### STEP 5

**誰でも気軽に立ち寄れる場づくりを進める**

・イベントの試行を繰り返す中で、場所やイベント内容を徐々に絞り、「あそこへ行けばいつも何かやっている」という場所として認識されるようになる。

・最終的には場所を固定化し、誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりをめざす。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・インタビュー等によりニーズを把握した上でテーマを決めると良い！
STEP2・まずは、地区内で定期的に開催されている活動やイベントと連携する形で企画できると良い！
STEP2・飲食店の空き時間を使わせてもらえるかも！ただし、店側にとってもメリットになるよう配慮する。

# 08

テーマ：にぎわい・交流

# 草加西部地区の魅力ＰＲ

## プロジェクトの目的

地区内には様々な資源がありますが、広く知られていないものも多く、そういった資源をもっとＰＲすることが求められます。そこで、隠れたまちの魅力を地区住民や地区外居住者向けにＰＲし、まちを知ってもらうことで、居住者や来街者を増やし、まちににぎわいを生み出します。

## プロジェクトの概要

地区住民と活動団体が協力して、まち歩きや文献調査、インタビュー等の様々な方法で地区の魅力を収集し、SNS や広報誌等の情報媒体を使って地区内外へ発信します。興味関心を持った方を活動メンバーに迎え入れながら、徐々に活動を広め、地区に定着させていきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

◆ 観光推進事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**地区の魅力をＰＲする方法を検討する**

・円卓会議を通じて、中心メンバーと賛同者で、地区の魅力をＰＲする方法について検討する。例えば、幅広い世代を対象とした広報誌の発行や、若者向けの SNS 開設などを行う。

・地区の魅力をより深く知ってもらえるように、ＰＲする内容は写真をメインにして、その場所にまつわるエピソードとセットで発信する方法等を検討する。

### STEP 2

● 写真やイラストなど自分の好きなことや趣味を情報発信に生かしたい協力者

**ＰＲに使用する地区の魅力を探す・集める**

・歴史的な場所やモノ、お店、まちなみ、日常の風景など、ＰＲしたい地区の魅力を様々な方法で収集する。例えば、地図を囲んでのアイデア出し、まちを歩きながらの写真撮影、地区にまつわる文献調査などを行う。

・収集した内容に関係する方やお店の方へのインタビューを通して、その場所にまつわるエピソード等を聞き出し、記録しておく。

・収集活動を継続的に行うことで、ＰＲに使用する「地区の魅力」の情報を蓄積する。

### STEP 3

● 広報誌の編集・印刷・発行
● SNS の開設・投稿

**情報を整理し、ＰＲに向けて準備する**

・STEP２で蓄積した情報を基に、ＰＲ内容やテーマを検討し、ＰＲ用に情報を整える。

・STEP１で検討したＰＲの方法に応じて、広報誌の作成、SNS の開設を行う。

・広報誌はデザインのスキルがある方に作成協力を依頼しつつ、メンバーの誰もが編集・印刷・発行しやすいフォーマットとしていくことも検討する。SNS については管理・投稿ルールを決めるなど、誰もが利用しやすいＰＲツールとなるよう環境を整備する。

**地区の魅力を発信する**

・継続的な広報誌の発行、SNS への投稿を行い、地区の魅力を発信する。

・広報誌は多くの方の目に留まるように、地区内のお店や公共施設に設置してもらう等の工夫をする。

### STEP 4

**一緒に活動するメンバーを募集する**

・プロジェクトに興味関心を持った方や、大学生、写真が趣味の方、文章が得意な方等を活動メンバーに迎え入れながら、徐々に活動を広めて定着させていく。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP1・インフルエンサーが SNS にアップしてくれると、なによりのＰＲになる。
STEP1・その時々で対象者とテーマを決めて PR する方法が考えられる。
STEP2・地元の方や活動団体を始め、色んな方から地区の魅力を募集する方法を考えられると良い！
STEP3・大学生等の若い人に SNS の運用に協力してもらうことや、既存のメディアに協力してもらえると良い！

# 09

テーマ：にぎわい・交流

# 地域交流のきっかけとなる マルシェ（青空市場）の開催

## プロジェクトの目的

コロナ禍でコミュニティが分断され、外出しない高年者が増えているため、身近な場所にマルシェを開き、外に出て人が集まるきっかけをつくり、地域交流を促進します。マルシェに立ち寄ることをきっかけとして、疎遠になった地域との関係性を取り戻し、地域のにぎわいや交流を新たにつくります。

## プロジェクトの概要

国道４号以西など駅前から離れたエリアで、公共施設や町会・自治会会館、公園等を利用して定期的なマルシェを開催します。多世代交流や地産地消につながるよう、マルシェは農家や子ども食堂等と連携して開催していきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 都市農業育成・共生支援事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

● 野菜販売のニーズ調査

**ターゲットとする地域を検討する**

・円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。駅前から離れたエリアを対象とし、まずは国道４号以西の西町周辺（西町立野町会、西町第一町会、西町第二町会）をターゲットとして検討する。

・マルシェを開く場所は、コミュニティセンター等の公共施設や公園、路上販売、駐車場、町会・自治会会館の活用などを検討する。

**マルシェのニーズを把握する**

・農家の協力者を得るためには一定の収益を見込む必要があり、実際に身近な買物に困っている方はいるのか、マルシェの需要があるかどうかなどのニーズを把握する調査を行う。

・例えば対象エリアの関係町会・自治会にインタビュー調査を行い、地域の方の困りごとや買い物ニーズについて確認する。

### STEP 2

● 地元の野菜農家や販売店の協力者

**マルシェの協力者を募集する**

・野菜を直売している地元のお店や農家、地域周辺で野菜や果物の農園を営んでいる地元の方に協力を呼び掛ける。

### STEP 3

● テントなどのイベント用資機材
● 販売する場所･施設の確保
● 利用許可等の手続

**マルシェを開く**

・対象エリア内の公共施設や公園等でマルシェを開催する。他にも、路上販売や駐車場、町会･自治会会館の活用も検討する。

・公共施設の予約や人的支援などは、最初は行政に協力してもらい、利益が出てくれば自主運営に移行する。

### STEP 4

**新たなニーズにも対応し、マルシェを拡大していく**

・一定の集客と収益が出れば定期的にマルシェを開催する。マルシェを継続し「また会えたね」と言い合える場をつくる。さらに他の町会・自治会にもエリアを拡大し、交流の輪を広げていく。

・防災キャンプのイベントに参加してマルシェを開催するなど、「新たな出会いとにぎわいの場づくり」にも展開していく。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・有機野菜を直売しているお店に、協力を呼び掛けてはどうか？
STEP2・八幡町のシェアアトリエ「つなぐば」のような場と協力者を確保したい。
STEP2・公園のトイレやテントもあるなど、開催環境が整っている町会に企画を売り込んではどうか？
STEP3・ボランティア事業ではないので、一定の集客のため、イベントとしての魅力アップは必要！
STEP3・地区内の身近な公園で開催すれば、災害時の避難場所の周知なども兼ねることができる！

# 10

テーマ：にぎわい・交流

# 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会

## プロジェクトの目的

子ども達が自分の住んでいるまちを自慢でき、誇りに思えるように、町会・自治会同士が協力して地域のお祭りやイベントを創出します。高齢化など課題を抱える町会・自治会同士がお祭りを中心として協力し合うことで、子どもから高年者まで幅広い世代の交流を促進し、住み良いまちづくりにつなげていきます。

## プロジェクトの概要

顔の見える、気心の知れた町会・自治会同士が集まることからはじまって、ゆくゆくは小学校の校庭での大盆踊り大会に仕立てていきます。いずれは地元の神社等にもご協力いただき、お神輿が数日かけて草加西部ブロック全体を練り歩くような、子どもが楽しめて記憶に残る行事にしていきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

◆ 町会・自治会活動促進事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

● 屋台や盆踊り等の運営経験のある町会・自治会の協力者

**各町会・自治会から活動メンバーを募集する**

・各町会・自治会ではそれぞれ盆踊りをやっており、お祭りのノウハウを持つ人も揃っているため、円卓会議を通じて、独自の大盆踊り大会への協力を各町会に呼びかける。

### STEP 2

● 町会・自治会との費用負担・年間スケジュール等の事前調整

**お祭りイベントを企画する**

・各町会・自治会からノウハウを持つ人を集め、屋台の出店、やぐらを組んでの盆踊りなど、各町会・自治会のお祭りの特色を合わせたイベントを企画する。

**イベント規模に合わせて、開催時期や会場を検討する**

・開催時期は９～１０月頃とする。西部地区の中心でお祭りができる広い場所として、西町小学校や草加小学校を候補地とする。

・始めは２～３町会からはじめ、いずれは地域内の全町会・自治会が集まる大盆踊りのイベントにしていく。

**他のプロジェクトにつながるキーパーソンを発掘する**

・町会・自治会合同の盆踊り大会の企画検討を通して、様々なノウハウを持つ協力者とのつながりをつくることで、円卓会議を通してコミュニティプランのその他のプロジェクトの展開にもつなげていく。

### STEP 3

● イベント運営のボランティア
● イベントや盆踊りに必要な資機材

**町会・自治会合同の盆踊り大会を開催する**

・１日～２日かけて、昼間は屋台や子どもが遊べるお祭りイベントを行い、夕方からはやぐらを囲んで盆踊りを行う。

・昼間のお祭りイベントや屋台の出店は、地域の子どもや親子、高年者の交流の場となるよう、町会・自治会メンバーや地元のお店、活動団体を中心に実施する。

### STEP 4

**住民が誇れる大盆踊り大会へと拡大する**

・いずれは地元の神社等にも協力いただき、盆踊りの会場を中心に、神社のお神輿が２、３日かけて街全体を回れるような大イベントに育てたい。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・１日限定の子ども食堂やマルシェも開催すれば、子ども･親子を中心に多くの集客が期待できる。
STEP4・お祭りでは子ども神輿や山車をつくって、子どもが楽しめて思い出に残るイベントにしたい！

# 11

テーマ：にぎわい・交流

# 母国の文化や<br>言葉の交流による関係づくり

## プロジェクトの目的

地域に関わりたいが接点がない、生活上の困りごとがあるが解決の方法がわからない、といった外国人の方がいる一方で、その方々とどのように接したら良いかわからない、という地区住民がいます。そこで、外国と日本の文化をテーマとして交流する機会をつくることで、お互いにとって暮らしやすい地域をめざします。

## プロジェクトの概要

市内に居住する外国の方と地区住民を対象に、気軽に、楽しく交流できる機会として「文化交流」をテーマにしたイベントを開催します。その中で、生活上の困りごと等を聞き取り、解決に向けて対応します。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 国際交流事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ ふれあい・いきいきサロン
- ◆ 多文化共生事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**交流する方法やテーマを具体化する**

・円卓会議を通じて、中心メンバーと賛同者で、外国人の方と地区住民が交流する方法やテーマを検討する。例えば、「各国の様々な文化」をテーマとした、食・音楽・昔遊び等での交流が考えられる。

・事前に市や公的機関が所有するデータ等の閲覧、関係団体等へのヒアリング等により、外国の方の困りごと等に関する実態を把握しておく。

### STEP 2

● イベントの実施場所の検討

**協力者を集めてイベントを企画する**

・外国の方との接点や専門知識等がある方など、企画・運営に関わってもらいたい個人や団体に声掛けし、協力者を集め、STEP 1 のメンバーと協力者で役割分担をしながら企画を具体化する。

### STEP 3

● 周知チラシの作成・印刷

**イベントを周知し、参加者を募る**

・知人の外国人や外国人コミュニティへの周知から開始する。その際、イベントの趣旨や内容をわかりやすくまとめたチラシ等を多言語で作成するなど、周知する方法を工夫する。

・まずはコアとなる方に参加してもらい、そこから徐々に参加者の輪を広げる。

### STEP 4

**「文化交流」をテーマにイベントを開催する**

・STEP 2 で企画した内容を踏まえ、小さなイベントから開始する。

・イベントの中で、参加者から日頃の生活での困りごと等を聞き取る。

・プロジェクトへの興味関心が高い方には、次回以降のイベントへのお誘いや、企画・運営への協力依頼をして、参加者と企画メンバーの輪を広げる。

**外国の方の困りごと解決に向けて対応する**

・イベントの中で把握した生活上の困りごと等の解決方法を検討し、市の所管課や関係団体等を紹介する等、適切な情報提供を行い、解決に導く。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP1・餅つき、成人式、花見、節分など、日本の行事をテーマに企画すれば無理なく続けられるかも！

STEP2・獨協大学の留学生等に、主催者側で協力してもらえると良いかも！その場合は、留学生にとってもメリットがある関わり方で依頼したい。

STEP2・楽しい雰囲気づくりができると、自然と人が集まってくるはず！

# 12

**テーマ：自然・文化**

# 地域の自然や歴史を巡る ウォーキングルートの発掘と創出

## プロジェクトの目的

散歩しながら地域の貴重な資源である農の風景や歴史的建物・店舗に気づき、楽しむことができる魅力的な歩行者空間をつくります。そして、散歩をきっかけとした住民同士の新たな交流や運動の機会を生み出すことで、住民の心と体の健康を維持します。

## プロジェクトの概要

地域の緑や歴史施設、店舗などの資源を発掘しながら、地区住民が歩いて楽しめるウォーキングルートマップを作成します。また、休憩場所となる公園や広場などの憩いの場の緑化や、地区の特色やルートを示す案内板の設置等によって、ウォーキングルートの魅力を向上させていき、将来的には健康維持や交流を目的としたウォーキング活動を開催します。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ スポーツ健康づくり事業
- ◆ 危機管理体制整備事業
- ◆ 草加まち歩きツアー
- ◆ 観光推進事業
- ◆ 自主防災活動等推進事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**活動メンバーを集めて、地域資源の情報を収集する**

- 円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。町会・自治会や関連組織を通じて、地域に精通した方や活動の趣旨に関心が高い方を探す。
- 書籍やインターネット、市からの情報提供により、地域資源の情報を収集し、地図に落とし込む。

### STEP 2

- 参加者募集のチラシ作成・印刷
- まち歩き用の地図や備品

**地域資源の発掘に向けたまち歩きを実施する**

- STEP1 で収集した情報を基に、対象エリアを決め、まち歩きを実施する。まち歩きでは、収集した地域資源の確認や、自然・神社仏閣・店舗等の地域資源の新たな発掘、歴史等に関するヒアリングを行う。
- まち歩きは円卓会議や地域コミュニティを通じて、中心メンバー以外の参加者も広く募る。

**地域資源を巡るウォーキングルートを考え、『ウォーキングマップ』を作成する**

- まち歩きの結果や収集した地域資源の情報を地図に落とし込み、メンバー間で共有する。
- 地図上で地域資源の取捨選択をし、地域資源を巡るウォーキングルートを考案する。
- ルートやルートの名称、その他の自然・神社仏閣・店舗などの場所、防災に関する情報を掲載した『ウォーキングマップ』を作成する。マップは対象エリアやテーマを変えて、様々なバージョンを作り、更新していく。

### STEP 3

- デザイン力に長けた協力者
- マップの作成・印刷

**魅力的な歩行者空間を新たに生み出す**

- 植栽の名前や解説を記したプレートやルートの案内板、神社仏閣の説明表示板などを作成し、掲示する。
- ルートの休憩所となる公園や広場を憩いの空間とするために、管理者との協議を踏まえて、植物を植える。
- 町会で行っている「花いっぱい咲かせ隊」によるプランター設置活動の拡大や、オープンガーデンの促進によって歩行者空間の緑化を図る。
- 水路などの小道の路面や壁面に、地域の子どもたちによるアートを施すことで、地域への愛着を育み、魅力的な歩行者空間を創出していく。

### STEP 4

- 所有者・管理者との連携・協議
- プレートや案内板の作成

**ウォーキング活動を開催する**

- 作成したウォーキングマップを活用して、住民によるウォーキング活動を実施する。
- ウォーキング活動を通じて健康促進や住民同士の交流を図る。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1・幅広い世代の意見が集まるとより良いものになる。特に女性の意見が欲しい！
- STEP2・マップには、地域資源の写真や情報、関連するコラムなども掲載するとさらに素敵なものになる！
- STEP2・神社仏閣などの歴史に関する情報は、専門家の方にチェックしてもらったほうが良い。
- STEP2・マップに広告欄を設けて掲載を募り、宣伝費をもらうことで、作成費に充てられるかもしれない。

# 13

テーマ：自然・文化

# 地域の魅力を伝える
# ご当地キャラクターづくり

## プロジェクトの目的

草加西部地区に住む人たちの特徴や個性を表現した、地区オリジナルのキャラクターを作成し、その作成過程を通して多世代交流を図ります。また、でき上がったキャラクターを活用して地域の魅力・情報を発信することで、地域への愛着を育み、活性化につなげます。

## プロジェクトの概要

コンセプトを検討し、地域に関わりのある方を対象にしたキャラクター案の公募を行います。住民参加型の投票などによってご当地キャラクターを決定し、デザイナー監修のもとで完成させます。ご当地キャラクターがイベントや情報発信などの様々な場面で活躍できるよう、他のプロジェクトとの連携アイデアを検討します。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

◆ 観光推進事業
◆ 草加せんべいマスコットパリポリくん



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**活動の中心メンバーを探す**

・円卓会議を通じてキャラクター作成に向けた活動の賛同者を集める。
・STEP2 の公募に向けたコンセプト決めなどは少数精鋭で行い、その後の状況に応じて協力者を集める。

### STEP 2

● 公募開催周知のチラシ作成・印刷

**公募・選定方法やキャラクターのコンセプトを決める**

・まずは地域の小中学生を対象に、町会の協力を得ながら、メインキャラクター作成に向けた公募を行う。
・その後の展開として、メインキャラクターの家族や友達といったサブキャラクターの作成は、公募対象を大人にするなど、多様な公募方法を検討する。
・事前の準備として、地域の特色やイメージを中心メンバーで意見交換しながら、公募する際のキャラクターのコンセプトを決定する。
・キャラクター作成後の活用シーンを明確にし、様々な場面で柔軟に活躍できるようなデザインの汎用性の高さを大切にする。

### STEP 3

● 投票会場の手配
● PTA などの組織との連携

**キャラクター案を公募する**

・決定したコンセプトや公募方法・公募対象をもとに、ご当地キャラクターの案を公募する。

**キャラクター案を選定し、案を元にご当地キャラクターを作成する**

・公平な住民参加型の投票などによって、集まったキャラクター案の中からご当地キャラクターを選定する。
・選ばれたご当地キャラクターは、地域のデザインに長けた方に協力してもらい、清書をしてもらうことで完成させる。

● デザイン力長けた協力者

### STEP 4

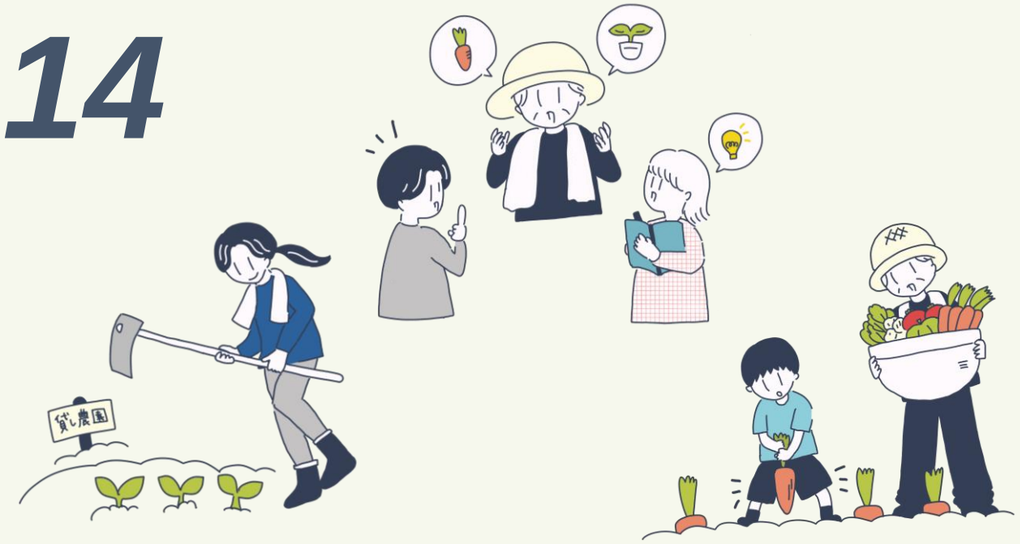
**キャラクターの活用アイデアを検討する**

・完成したご当地キャラクターは、他のプロジェクトと連携しながら、活動やイベント周知時の、チラシや案内板での情報発信といった機会に活用していく。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・草加西部地区の人は生真面目でおおらかな印象があり、そのイメージをキャラクターで表現したい！
STEP2・デザインだけでなく、キャラクターの性格などもコンセプトで考えると面白いかも！
STEP2・「農業」を表す緑色、「働き者」を表す青色など、コンセプトカラーがあると良い！
STEP4・ウォーキングルートの案内板にキャラクターを用いるなどの連携の可能性もある。

# 14




テーマ：自然・文化

# 多様な農業のあり方による『農がある風景』の保全

## プロジェクトの目的

若者や子どもが地域の身近な自然に触れ合う機会を生み、農業の大切さに対する価値観を育んでいきます。さらに、農業の魅力ＰＲや、新たな担い手探しのお手伝い、体験農園・貸し農園といった新たな農業形態を始めるきっかけ作りをすることで、農の風景を守っていきます。

## プロジェクトの概要

地域に点在する農地を活用し、子どもを対象とした体験農園を開催することで、子どもや親世代に向けて農業の素晴らしさをＰＲします。また、農地を手放そうとしている農家に対する、体験農園・貸し農園という新たな農業形態の提案や、高齢化などで担い手不足に悩む農家に対する、農業に関心がある若者とのマッチングの手助けをしていきます。

### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

◆ 都市農業育成・共生支援事業
◆ 生産緑地指定推進保全事業



## プロジェクトの全体像

### STEP 1

**体験農園の協力者や場所の情報を集める**

・現在貸し農園を運営している農家を中心に、円卓会議や既存の農家のネットワークを通じて、体験農園の実施に協力してもらえる農家の情報を集める。
・農家のコミュニティを通じて、農地の維持に困っている方の情報を集める。

### STEP 2

● 多くの子どもに体験農園の機会を持ってもらうための方法の検討

**体験農園を開催する**

・農地を活用して、地域の小学生とその保護者に農業を体験してもらう。
・地域の若者や子どもたちに農業の良さをＰＲするとともに、自然との関わりを通じた豊かな体験の機会をつくる。

### STEP 3

● 体験農園・貸し農園のノウハウの共有方法の検討

**体験農園・貸し農園として活用できる農地を増やす**

・まずは手軽な体験農園、次に貸し農園と、段階を上げて農業に触れてもらうことで、農業の良さを実感してもらい、地域の農業の需要を高める。
・担い手不足で困っている農家や、宅地化されてしまいそうな農地の所有者と、体験農園・貸し農園の開業に必要なノウハウを共有し、農地活用の新たな選択肢を持ってもらう。

### STEP 4

● 農業に関する新たなプラットフォームづくり

**農業を通じた新たなコミュニティをつくる**

・体験農園・貸し農園での活動を通して農家同士や、農業に関心がある人たちの新たなネットワークを構築していく。
・ネットワークを活用して、さらなる農地の活用方法を模索することや、担い手不足に困る農家と、本格的に農業を始めたい人とのマッチングの手助けをする。

### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・より多くの子どもに農業体験をしてもらうために、学校や PTA と連携できると良い！
STEP2・自然と触れ合い、ともに汗を流して働くという農業を通じた人間関係は、さわやかで快い素晴らしさがあるので、多くの人たちに実感してもらいたい！
STEP3・治水機能を持つ農地を維持していくことは、昨今増加している水害への対策なるので、地域の防災力向上にもつながる取組である。
STEP3・活動を通じて地産地消の価値観も育まれていくので、SDGs にも関連していると思う。

# Ⅳ　プロジェクトの実現に向けて

1．プロジェクトを実現していくために
2．実現のための話合いの場「円卓会議」
3．プロジェクトを 実現 していく 4 つのポイント

## 1．プロジェクトを実現していくために

草加西部地区のミライの実現に向けたプロジェクトはいかがでしたか？
これらのプロジェクトを実践し、実現につなげていくためには、地域のみなさん一人ひとりの想いや、「こんなことがしてみたい」といった意欲、参加や協力が大切です。

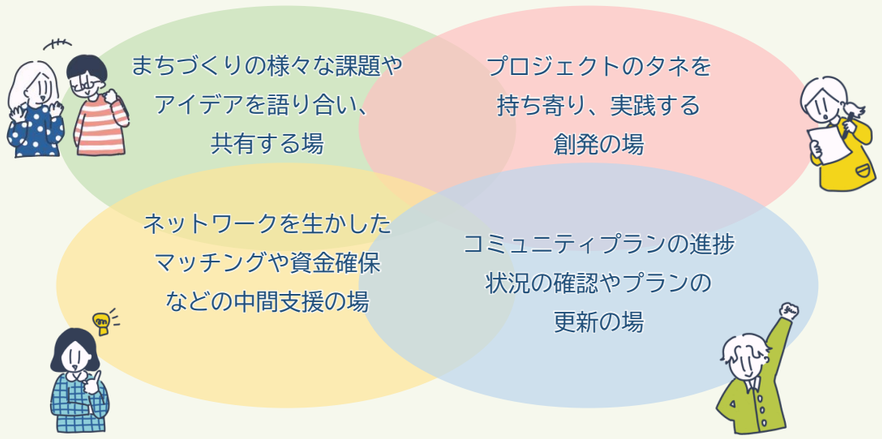
この章では、コミュニティプランを実現していく方法を、具体的に検討を進めるための話合いの場である「円卓会議」や、地区別懇談会の中で試行したモデルプロジェクトの例も交えながら、「４つのポイント」としてご紹介します。

## 2．実現のための話合いの場「円卓会議」

コミュニティプラン作成に向けて地区別懇談会を開催し、地域のみんなで話合いを重ねてきました。今後は、地域のコミュニティをベースとした「円卓会議」を開催します。

円卓会議は、地区にお住まいの方や町会・自治会等の地域で活動されている方、行政、民間企業等、誰でも気軽に参加できる場であり、コミュニティプランを実践していくための体制として、多様なまちづくりの主体が緩やかに集まる自主組織の場として育んでいきます。

円卓会議の主な役割は、課題やアイデアの共有、
実践や創発、マッチングや中間支援、プランの確認や更新
の４つが想定されています。



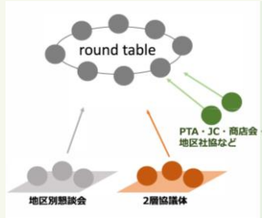

円卓会議を開催し、徐々に発展させていく流れとして、以下のような形が考えられます。

まずは気軽に集まり、アイデアや課題を持ち寄るなどして緩やかに
進めます。無理なく少しずつ体制を構築していき
各プロジェクトのマネジメントや持続的な発展をめざしていきます。

初動期

### STEP1　誰でも気軽に参加できる場としての体制づくり

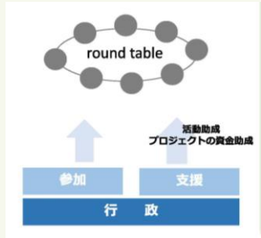
- コミュニティプランを着実に実践していていくための持続的な体制として、地区別懇談会参加者を中心に地域の自主組織である「円卓会議」を立ち上げます。
- 立ち上げに向けて、様々な立場や属性の人達に参加を呼びかけます。
- 既に地区の中で活動している様々な協議会や活動団体で、円卓会議と連携できるものを整理・可視化して、地域のつながりの体系化・「見える化」をめざします。（将来的な円卓会議の自律性を重視して、 創設期を除き、極力、市が事務局にはならないような体制をめざします。）




成長期

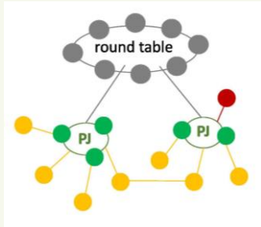
### STEP２　情報共有・意見交換のための場づくり

- 小さくても体制が整い始めたら、円卓会議を開催し、プロジェクト推進について議論します。
- コミュニティプラン以外にも様々なまちづくりについて情報の交換・共有・議論をし、地区のよろず相談窓口としての役割もめざします。
- 円卓会議の一員として行政も参加し、会議の内容を庁内にフィードバックしたり、行政提案の課題を会議に持ち寄るなど連携を強めます。




### STEP３　各プロジェクトのマネジメント・進捗管理

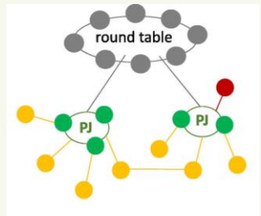
- 円卓会議を戦略チームにして、各プロジェクトの緩やかなマネジメント、進捗管理をめざします。
- 各プロジェクトを管理し、プロジェクト内容に合った団体や人のマッチングを図ります。




自立・発展期

### STEP４　地域の緩やかな結節点としての会議の恒常的な継続

- プロジェクト・事業・団体の緩やかな結節点として円卓会議の恒常的な維持をめざします。例）議論の場、行政・地域の総合相談の窓口、コミプラの進捗管理、コミプラへのプロジェクトの追加・更新、団体・人のマッチング等
- 長く続けるためには、 メンバーの入れ替わりよる良い変化（イノベーション）も必要なため、 参加者は固定せず、円卓会議の出入りは自由とします。



市では、円卓会議の開催やコミュニティプランの実現に向けて、以下のような支援を行っていきます。また、５年ごとに達成状況などを評価し、プランを見直します。

| 支援項目 | 支援の内容（例） |
|---|---|
| ノウハウ・人材の支援 | 初動期の運営やプロジェクトの立ち上げの伴走支援、市民活動センターによる助言・技術支援や、まちづくりアドバイザーの派遣など |
| 情報発信の支援 | 市が発行するまちづくりニュースや、広報そうか、市のホームページや公式SNSなどで情報を発信し、活動を広く周知 |
| 資金調達の支援 | 市の既存助成メニューの活用、国・県・民間等の支援メニューの整理と情報提供 |
| 円卓会議の推進に向けた支援 | 地区に存在する様々な協議会・活動団体などで、円卓会議と一体化できるもの、連携できるものを整理・体系化 |

### “誰でも気軽に参加できる場”としての「円卓会議」

「円卓会議」という場を活用して、まずは気軽に集まり、一人ひとりの関心のあることや地域のことを語り合えるような場をみんなでめざしましょう。

**【情報共有】**
＃ケーキ屋さんできたよ　＃工事始まるよ
＃審議会委員募集中！

**【地域の人の発見・交流の場】**
＃こんな面白い人がいるんだ
＃ここには同じ想いの人が誰かいる

**【仲間づくり・マッチングの場】**
＃この人と連携して何かしたい
＃手伝ってくれる人いないかな

**【資金やノウハウ集め】**
＃プラン遂行に係るお金の調達
＃こんな手法もあるらしいよ

**【コミプラの遂行】**
＃新たな地域課題の解決プラン
＃各プランの進捗報告や協力依頼



## ３．プロジェクトを実現していく４つのポイント

プロジェクトを実践し、活動を継続していくためには、一人ひとりの想いを生かしながら、具体的なアクションにつなげていくことが大切になります。
ここでは、そのためのポイントをご紹介します！

### ① 取組内容を PR して、仲間や協力の輪を広げよう

**情報発信の方法は様々ですが、それぞれの特徴やメリットを踏まえて、プロジェクトの内容に合った効果的な方法で実施していきましょう。（☛52 ページから紹介）**

- 目的や対象に応じて、情報発信の方法を工夫しよう
- 無理なく継続的に発信していける体制を検討しよう

### ② 地域や行政の持つ資源を生かそう

**地域にある様々な資源を発掘し、活動に生かしていきましょう。また、行政の関連事業や支援事業の活用も検討してみましょう。（☛54 ページから紹介）**

- 地域の資源を生かして活動しよう
- 行政や市社協等の事業や活動支援の制度・仕組みも活用しよう

### ③ プロジェクトを小さなことからでもお試ししてみよう

**まずはできることやできそうなことを、地域の中で行ってみましょう。その成果や課題を踏まえて、プロジェクトの実現可能性を高めていきましょう。（☛58 ページから紹介）**

- まずはできること・できそうなことから始めてみよう
- 「お試し」で見えてきた成果や課題を次につなげよう

### ④ プロジェクトの活動を継続・発展させていこう

**プロジェクトが立ち上がり、試行を経て本格的に動き始めたら、活動の継続や発展のために、「組織」「資金」「連携・協働」などのスキルも高めていきましょう。（☛59 ページから紹介）**

- 「組織力」「資金力」「連携・協働力」をつけていこう
- 「組織力」「資金力」「連携・協働力」の確認ポイント

４つのポイントの各ページでは、モデルプロジェクトでの実践例を
**「モデルプロジェクトではどうだった？」**として紹介しています！

## ① 取組内容を PR して、仲間や協力の輪を広げよう

### 目的や対象に応じて、情報発信の方法を工夫しよう

プロジェクトの内容を地域の中で広く知ってもらうことは、仲間を増やしたり、活動を成長させたり、地域の中で協力や信頼を得ていくために重要なこととなります。

➡主な情報発信の方法としては、右ページのようなものがあります。それぞれ特徴やメリットが異なるため、プロジェクトの内容に合った効果的な方法を実施していきましょう。

### 無理なく継続的に発信していける体制を検討しよう

周囲に活動を知ってもらうためには、継続的に発信していくことも大切になります。

➡活動メンバーや協力者の得意なことやネットワークを生かした方法、発信する側に負担になり過ぎずに続けられそうな方法、といった視点でも検討してみましょう。

### モデルプロジェクトではどうだった？

地区の魅力を広くＰＲするために、ＳＮＳ(Instagram)を立ち上げました。また、広報誌を作り、公共施設や紹介したお店などに置いてもらえるよう、メンバーで手分けして協力の輪を広げていきました。

モデルプロジェクトの検討状況を報告する『相談会通信』を発行し、プロジェクトメンバー以外の方から地域資源に関する情報を募りました。

### 主な情報の発信方法

**チラシ・ポスター**

伝えたい対象者に合った内容・デザインでチラシやポスターを作成する

POINT！ 地域の人の目に触れやすい、地域の掲示板や公共施設などに掲示する

**ＳＮＳ**

Facebook、Twitter、Instagram などを活用して情報を発信する

POINT！ 活動日や活動内容をタイムリーに発信し、情報を随時更新していく

**口コミ**

メンバーを中心に、知り合い等を通じて、口コミで周知する

POINT！ 活動の参加者など、様々な人を巻き込んで輪を広げて地域に浸透させる

**地域での連携**

地域の組織や活動団体等に情報発信に協力してもらう

POINT！ プロジェクトの対象者と関連のある組織や団体を通じて情報発信を行う

（チラシの例）

モデルプロジェクトで地区をＰＲするために作成した冊子の一部

## ② 地域や行政の持つ資源を生かそう

### 地域の資源を生かして活動しよう

プロジェクトを実現・発展させていく上では、関わるメンバーだけではなく、地域の人・場所・ネットワーク・情報等の様々な資源を発掘し、活動に生かしていくことも大切なポイントとなります。

➡円卓会議等の場で使えそうな資源をみんなで出し合ってみることや、チラシや SNS など広報を通じて協力者や必要とする支援・モノなどを呼びかけてみましょう。

### 行政や市社協等の事業や活動支援の制度・仕組みを活用しよう

草加西部地区のミライの実現に向けたプロジェクトは様々な分野に関わるものがある一方で、行政や市社協等の事業でも、より良い地域づくりをめざして、分野ごとに様々な取組が行われています。
また、地域の活動を応援するための施策事業も実施されています。

➡これらの視点から、自分たちの実現したいプロジェクトに関わりそうな施策事業や、活動のサポートを得られそうな制度・仕組みがないか、検討してみましょう。

### モデルプロジェクトではどうだった？

魅力ＰＲの素材を探す中で、地元の方がおすすめするお店のほか、知る人ぞ知る祠や歴史スポットなど、市ホームページや、歴史民俗資料館等も利用して調べました。今後紹介したい、地域の資源が多くあることを改めて実感できました。

メンバーで持ち寄った地域資源の情報を地図上に落として共有しました。その後、まち歩きを行い、実際に現地で地域資源を確認しながら、今後のマップづくりの材料となる写真を撮影しました。

### 関係する行政や社協等の事業

**場所関係の事業**

| 名称 | 事業等の概要 |
|---|---|
| 草加市空き家バンク制度 | 空き家や空き店舗の所有者で、売却や賃貸の希望がある人が空き家バンクに登録し、空き家を購入したい人や借りたい人に専用サイトを通じて情報を公開する制度（担当：都市計画課） |

**人材関係の事業**

| | |
|---|---|
| 草加市市民活動センター | 市民の主体的なまちづくりを支援する施設。「市民活動センター使用登録団体・個人」には市内で活動する団体・個人が登録しており、活動情報は同センター内で確認できる（担当：市民活動センター） |
| 草加市ボランティアセンター | 地域でのボランティア活動に関心・意欲のある人を対象としたボランティア登録制度やボランティア活動の紹介等を行っている（担当：社会福祉協議会） |
| 生活支援コーディネーター | 高年者の皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、市民や団体等とともに、話合いの場（第 1 層・第 2 層の協議体）を設け、支え合いの地域づくりをめざして共に取り組む役割を担う （担当：社会福祉協議会） |
| 子育て支援コーディネーター | 子育てに関する様々な悩みや疑問についての情報提供や、必要に応じて適切な窓口へつなぐ役割を担う（担当：子育て支援センター） |

**助成金・活動の相談関係の事業**

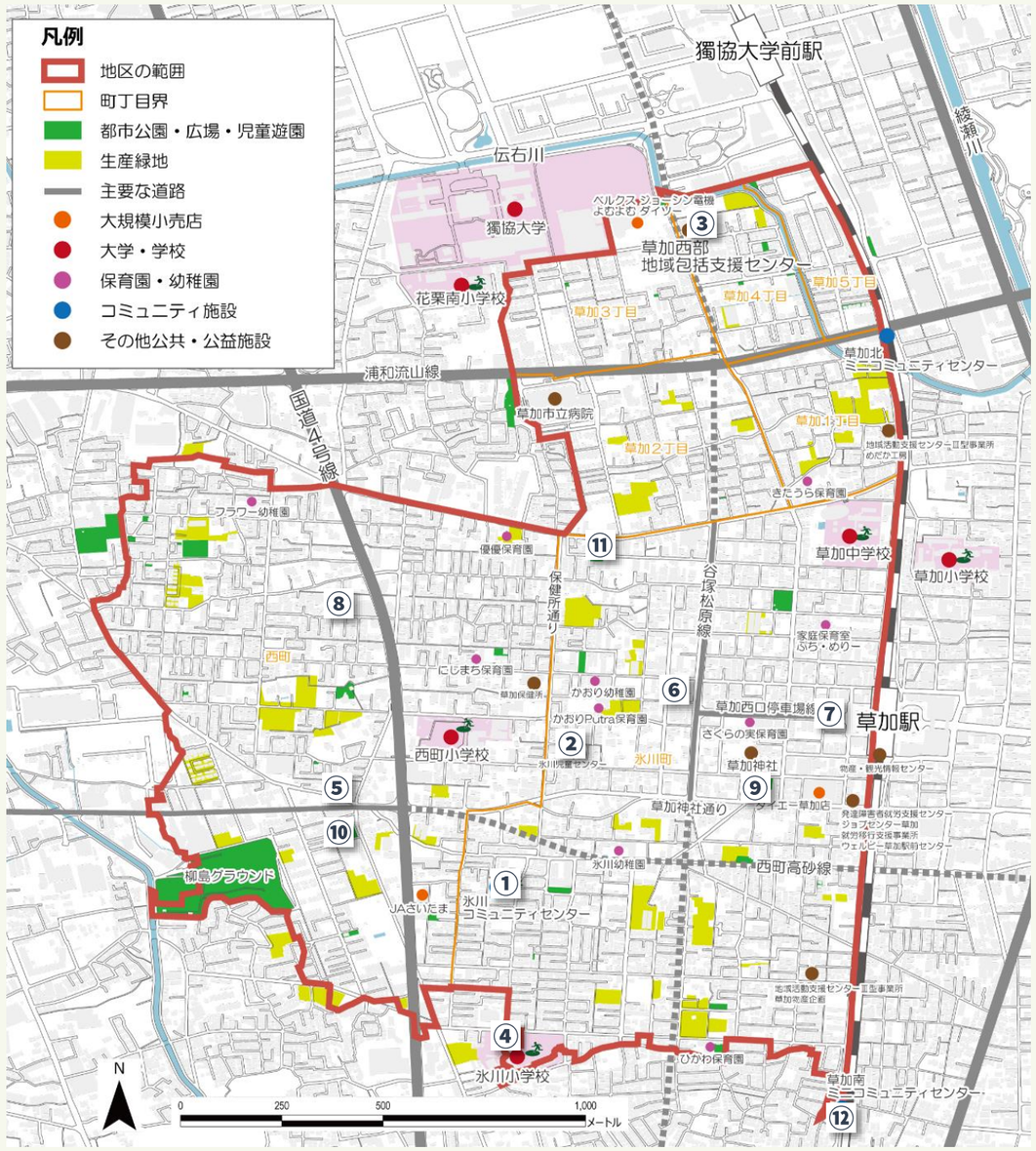
| | |
|---|---|
| ふるさとまちづくり応援基金 | 草加市内で非営利で活動する団体に対する助成制度。「はじめよう部門」「そだてよう部門」「うごかそう部門」の 3 つの部門があり、公開審査会によって審査が行われる（担当：市民活動センター） |
| 草加市まちづくり<br>アドバイザー派遣制度 | まちづくりアドバイザーを派遣し、景観づくりやまちづくりに関わる指導・助言などを行う制度（対象者・団体：地区景観づくり協議会、地区まちづくり協議会及び地域市民団体等）（担当：都市計画課） |

**情報発信の媒体**

| | |
|---|---|
| 草加市役所　ホームページ | 市内の様々な情報から市政情報まで、幅広く情報を掲載している市の公式サイト（担当：広報課） |
| まちづくりマッチング | 地域活動を行う市民団体と、地域活動へ何らかの形で参加したいと考える事業者とがつながる場（マッチング）として、市民団体が抱える課題や提案等を掲載しているサイト（担当：市民活動センター） |
| そうか子育て応援・<br>情報サイト「ぽっくるん」 | 市民で構成される運営委員会を中心にサイト運営を行い、子育て支援団体などで構成される「子育て応援隊」などの情報等を官民問わず市民目線で子育てに関する情報発信を行っている（担当：子育て支援センター） |

## 地域の資源（例）

下記の地図中の①～⑫は、地区別懇談会の中で参加者の皆さんからあがった「日ごろよく利用する場所」や「地域の活動」です。右ページには場所の名称や活動内容等を掲載しています。参考にしてみてください！




| 場所の名称・活動内容 |
|---|
| **①氷川コミュニティセンター**<br>・町会のイベント（夏祭り、ハロウィン、クリスマスイベントなど）<br>・地域の活動（茶道・ボーイスカウト活動など）<br>・高年者向けのイベント（パリポリくん体操、輪投げ練習など） |
| **②氷川児童センター**<br>・子どもたちの集いの場（夏にはお化け屋敷を開催） |
| **③ケアステーションかしの木（草加西部地域包括支援センター）**<br>・地域の高年者への介護・医療・福祉など様々な観点から、総合的な支援を行っている、地域の高年者の窓口 |
| **④氷川小学校**<br>・見守り隊の活動 |
| **⑤西町第一会館**<br>・クラブ活動（カラオケ、コーラス、輪投げなど）、高年者の健康維持活動 |
| **⑥花いっぱい運動**<br>・「花いっぱい咲かせ隊」による、花のプランターを設置する活動 |
| **⑦草加駅西口商店会**<br>・防犯パトロール |
| **⑧みんなのひろば「あきちゃんち」**<br>・NPO 団体が一軒家を改装してつくった地域サロンの活動の場 |
| **⑨氷川中公園**<br>・SL 機関車（子どもたちに人気）、力石などがある。園内にはトイレもあり、便利<br>・お正月、七五三、初宮詣、花見など、様々なシーンで利用 |
| **⑩西町南公園**<br>・高年者のグランドゴルフ（週４回）、公園の清掃（ボランティア活動）などを実施中<br>・備蓄倉庫があり、一時集合場所にもなっている |
| **⑪ふれあい広場**<br>・グラウンドゴルフ（火・木・土・日の午前中）、子どものサッカー練習<br>・氷川町西部町会のフェスティバル（年１回） |
| **⑫谷塚高架下公園**<br>・子どもの遊び場 |

※地区別懇談会の参加者からあがった意見をもとに作成しています。
地区内の全ての場所や活動を掲載しているわけではございません。

## ③ プロジェクトを小さなことからでもお試ししてみよう

### まずはできること・できそうなことから始めてみよう

プロジェクトを大きく育てていくためには、活動者や住んでいる人々のニーズや想いを踏まえて、実際に地域の中で活動と検証を繰り返すことで、地元のニーズや状況に合った形となり、実現可能性を高めていくことが重要です。

➡いきなり本格的な実現をめざすよりも、まずはできること、できそうなことから。

### 「お試し」で見えてきた成果や課題を次につなげよう

実際に試行を行なってみたら、その取組が一過性のもので終わらないよう、その成果や課題を振り返り、プロジェクトのあり方をバージョンアップさせていきましょう。

➡試行したからこそ見えてきたことをメンバーや関係者で振り返る機会を設けて、その検討結果を整理しましょう。また、振返りの材料となるよう、活動参加者へのアンケートや、試行前に仮説を立てた上で、実施結果を踏まえて検証すること等も有効です。

**プロジェクト試行のポイント**

**小さく・早く・安く（light, quick, cheap：LQC）**
急に大きなことやお金のかかることをめざすのではなく、できる範囲で試行する
POINT！ まずは小規模に、準備に時間や負担をかけ過ぎず、低予算で行ってみる

**当日のボランティアや参加者の安全管理を想定する**
初めての試みを行う上での、予期せぬケガや事故などに事前に想定し備えておく
POINT！ イベント保険の加入を検討する

**試行して終わりにならないようにする**
試行した後には振返りの機会を設けて、成果や課題を整理して次につなげる
POINT！ 失敗も、挑戦したからこその成果と前向きにとらえ、次の改善につなげる

### モデルプロジェクトではどうだった？

ＰＲのための素材が集まったので、さっそくＳＮＳにアップしました。広報誌も完成し配布した時点で「お試し」のゴールにしました。フォロワーも少しずつですが増えています。広報誌への反応も気になっています。



## ④ プロジェクトの活動を継続・発展させていこう

### 「組織力」「資金力」「連携・協働力」をつけていこう

プロジェクトが立ち上げの時期や試行を経て、本格的に動き始めたら、みんなの想いで立ち上げて取り組んできた活動を今後も継続・発展していけるよう、主に以下の３つの視点から、今後課題となりそうな点を洗い出し、対策を話し合ってみましょう。

**「組織力」「資金力」「連携・協働力」の確認ポイント**

「組織力」の確認ポイント

- ☐ メンバーや協力者に基本的な活動の趣旨や目的が共通理解として伝わっているか
- ☐ みんなそれぞれが役割分担をしていて、リーダー一人で背負っていないか
- ☐ 一方的な指示や上から目線の発言などがなく、互いに意見を尊重し聞いているか
- ☐ 自分の「できること」を生かして、助け合っているか
- ☐ メンバーが活動を楽しみ、喜びを感じる機会を設けているか

「資金力」の確認ポイント

- ☐ 活動の魅力を PR して、協力者やファンを増やせているか
- ☐ 活動に関わる経費の削減（場所やモノの支援を受けるなど）を工夫しているか
- ☐ 参加費や協賛金・寄附等から、資金を集められているか
- ☐ 助成金など、使えそうな制度を検討・活用しているか

「連携・協働力」の確認ポイント

- ☐ コミュニティプランの他プロジェクト活動との連携を検討したか
- ☐ 地域の他の活動団体とのネットワークがあるか
- ☐ 行政等の関連組織・団体と、情報交換や相談の機会があるか

### モデルプロジェクトではどうだった？

これからウォーキングマップを作成していくに当たって、パソコンで紙面をデザインできる人材を見つけることの必要性や、マップを印刷するための資金調達、その後のマップの活用方法など、課題が明らかになりました。

# V　市民と市の協働の
# まちづくりをめざして

## １．プロジェクトに関連する市の施策・事業

# １．プロジェクトに関連する市の施策・事業

Ⅲ章の各プロジェクトに関連する市の施策・事業の一覧を以下に掲載します。
プロジェクトを進める中で連携できる事業や、支援策等がございますので、お気軽にご相談ください。

| 施策・事業名 | 概　要 | 所管課・室名 | つながり・支え合い | | | | 安全・安心 | | にぎわい・交流 | | | | | 自然・文化 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | プロジェクト名 | 01 ボランティア人口を増やすための仕組みづくり | 02 リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援 | 03 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり | 04 多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり | 05 安全なまちをめざした地域の見守り運動 | 06 公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント | 07 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり | 08 草加西部地区の魅力ＰＲ | 09 地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催 | 10 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会 | 11 母国の文化や言葉の交流による関係づくり | 12 地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出 | 13 地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり | 14 多様な農業のあり方による『農のある風景』の保全 |
| **危機管理体制整備事業<br>自主防災活動等推進事業** | ・市内32の避難所運営委員会の運営を支援します。また、会議に地区参集部職員らとともに参加し、地域による「避難所運営市民防災訓練」を支援しています。<br>・災害・気象等の情報配信のほか、避難所の場所を地図で確認できる防災アプリ「防災草加」や、主に避難行動用支援者を対象に自動音声によって電話でお知らせする「草加市あんしん電話」の運用を行っています。<br>・小・中学校の授業の一環として、ハザードマップを教材とした防災学習を実施しています。 | 危機管理課 | | | | | | ● | | | | | | ● | | |
| **多文化共生支援事業** | 日本語によるコミュニケーションに支障がある市民の生活適応支援や市民の国際理解啓発を目的に事業を行う、ワンストップ相談窓口です。 | 人権共生課 | | | | | | | | | | | ● | | | |
| **コミュニティセンター管理事業** | 地域の市民参加のもとでコミュニティづくりを推進するため、コミュニティセンターを中心とした地域活動を支援しています。 | みんなでまちづくり課 | | | ● | ● | | ● | ● | | ● | | ● | | | |
| **町会・自治会活動促進事業** | 地域コミュニティの活性化を促進するため、町会・自治会への加入を促進しています。 | みんなでまちづくり課 | | | | | | | | | | ● | | | | |
| **商店街元気倍増事業** | 市内商店街等が実施する取組を支援し、商店街の活性化を目指します。 | 産業振興課 | ● | | | ● | | | ● | | | | | | | |
| **創業支援事業** | 草加商工会議所や金融機関と連携して意欲ある創業希望者を支援し、市内産業の活性化を目指します。 | 産業振興課 | | | ● | | | | | | | | | | | |
| **市街地活性化事業** | 当該地域に点在する既存建物・空き地等を民間主導でリノベーションして新たなコンテンツを創出することで、市街地活性化を目指します。 | 産業振興課 | ● | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| **草加せんべいマスコット<br>パリポリくん** | 味・香り・歯ごたえ三拍子揃った「本場の本物」草加せんべいをお子さまからお年寄りまで、広く親しんでいただきたいとの願いから誕生しました。「草加せんべい」のおいしさをＰＲするため活躍しています。草加市観光大使にも任命されています。 | 産業振興課 | | | | | | | | | | | | | ● | |
| **都市農業育成・共生支援事業** | 地産地消をはじめとした魅力ある都市農業振興のため、市民農園及び庭先販売をＰＲするとともに、地場農産物のＰＲ事業や庭先販売推進事業等を実施します。 | 都市農業振興課 | | | | | | | | | ● | | | | | ● |

| 施策・事業名 | 概　要 | 所管課・室名 | つながり・支え合い | | | | 安全・安心 | | にぎわい・交流 | | | | | 自然・文化 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | プロジェクト名 | 01 ボランティア人口を増やすための仕組みづくり | 02 リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援 | 03 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり | 04 多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり | 05 安全なまちをめざした地域の見守り運動 | 06 公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント | 07 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり | 08 草加西部地区の魅力ＰＲ | 09 地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催 | 10 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会 | 11 母国の文化や言葉の交流による関係づくり | 12 地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出 | 13 地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり | 14 多様な農業のあり方による『農のある風景』の保全 |
| 草加まち歩きツアー | 草加市観光協会の主催により、草加宿の歴史や文化を巡り歩く参加体験型のツアーです。 | 文化観光課 | | | | | | | | | | | | ● | | |
| 観光推進事業 | 観光資源をネットワーク化し、草加の魅力を広く市内外に情報発信するほか、本市を訪れた方々をもてなす仕組みづくりを進め、観光により本市のブランド力の向上を図り、多くの方々が訪れるまちを目指します。 | 文化観光課 | | | | | | | | ● | | | | ● | ● | |
| 国際交流事業 | 海外の姉妹都市・友好都市との相互交流を通じて、異なる文化や生活習慣に関する市民の理解を深め、草加市国際交流協会などの市民団体と協働し、事業を推進していきます。 | 文化観光課 | | | | | | | | | | | ● | | | |
| スポーツ指導者養成・団体育成事業 | ・社会体育団体補助<br>・地域スポーツ推進事業補助 | スポーツ振興課 | | ● | | | | | | | | | | | | |
| スポーツ健康づくり事業 | 市内のウォーキングコースを活用したウォーキング大会の開催することで、ウォーキングの普及と健康増進を図っています。年２回ほど。 | スポーツ振興課 | | | | | | | | | | | | ● | | |
| 地域福祉活動推進事業 | ・地域生活課題を抱える市民及びその世帯に対する支援体制や、地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を、一体的かつ重層的に整備します。<br>・既存の社会参加に向けた支援では対応できないニーズに対応するため、地域の社会資源などを活用・創出し、社会とのつながりづくりに向けた支援を行います。<br>世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備等を検討し、既存の居場所で対応できない場合は創出します。 | 福祉政策課 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | ● | | | |
| ふれあい・いきいきサロン | 歩いて行ける身近な場所で、住民の方々が気軽に集える仲間づくりの場が「ふれあい・いきいきサロン」です。社会福祉協議会では、高年者や子育て中の方、障がいのある方などが「気軽に・無理なく・楽しく・自由」に集えるサロンづくりを応援しています。 | 社会福祉協議会 | | | | ● | | | ● | | | | ● | | | |
| 草加市ボランティアセンター | 本会ボランティアセンターとして、ボランティアの拡充を図るため、育成・支援及び各種講座や福祉教育体験学習などを実施し、ボランティア活動の推進を図っています。 | 社会福祉協議会 | ● | | | | | | | | | | | | | |
| 家族介護支援事業 | 認知症について正しい知識を持ち、認知症の人やその家族の「応援者」である認知症サポーターを養成しています。 | 長寿支援課 | | | | | ● | | | | | | | | | |

| 施策・事業名 | 概　要 | 所管課・室名 | つながり・支え合い | | | | 安全・安心 | | にぎわい・交流 | | | | | 自然・文化 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | プロジェクト名 | 01 ボランティア人口を増やすための仕組みづくり | 02 リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援 | 03 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり | 04 多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり | 05 安全なまちをめざした地域の見守り運動 | 06 公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント | 07 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり | 08 草加西部地区の魅力PR | 09 地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催 | 10 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会 | 11 母国の文化や言葉の交流による関係づくり | 12 地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出 | 13 地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり | 14 多様な農業のあり方による『農のある風景』の保全 |
| **地域介護予防活動支援事業** | 介護予防普及啓発を目的として、各地域包括支援センターが介護予防教室や認知症予防の教室等を行っています。教室での活動が自主化することで、新たなコミュニティが発足するきっかけになる場合もあります。 | 長寿支援課 | | | ● | | | | | | | | | | | |
| **地域包括支援センター委託事業** | 地域包括支援センターを設置し、地域の一般高年者、要支援となった方等の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援しています。支援を行う中で把握した地域のニーズを満たすための検討を行い、福祉の面からのまちづくりを推進しています。 | 長寿支援課 | | | | ● | | | ● | | | | | | | |
| **生活支援体制整備事業** | 生活支援コーディネーターを配置し、地域住民、団体等とともに、高年者の皆さんが地域で暮らし続けるための支え合いの地域づくりについて話し合いの場を設けています。市全体の話し合いの場として第1層協議体、各地域の話し合いの場として第2層の協議体を設置しています。 | 長寿支援課 | | | | ● | | | ● | | | | | | | |
| **認知症サポーター養成講座** | 認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かく見守る応援者を養成する講座です。 | 長寿支援課 | | | | ● | | | | | | | | | | |
| **オレンジカフェ（認知症カフェ）** | 認知知症に関心のある人誰もが集うことができ、お茶を飲みながら気軽に話ができる場です。 | 長寿支援課 | | | ● | ● | | | ● | | | | | | | |
| **子育て世代包括支援センター運営事業** | 妊娠期からの切れ目のない支援のため、令和2年3月からにんしん出産相談室ぽかぽか（子育て世代包括支援センター）を開設し、母子健康手帳交付時に保健師等による面接を実施しています。面接を通して妊婦の実情を把握し、必要に応じて個別支援プランを作成し、継続的なフォローを行っています。 | 健康づくり課 | | | | | | | ● | | | | | | | |
| **放課後子ども教室** | 放課後に小学校内の教室や校庭などを使用し、子どもの居場所づくりを推進している。一緒に過ごすスタッフは、地域ボランティアが担っています。 | 子ども育成課 | ● | | | | | | | | | | | | | |
| **子育て支援講座** | 子育て中の保護者や子育て支援団体等の支援者を対象に、子育てからくるストレスや不安の軽減を図ること、子育て支援者の育成と連携を図るために開催している講座です。 | 子育て支援センター | | | ● | | | | | | | | | | | |
| **総合相談センター事業** | 子育て支援の拠点として、子育てに係る総合的な相談や情報提供を行い、子育てに関する不安を軽減する。そして、子育て支援団体等の育成及び支援や子育て支援ネットワークの推進で子育て支援の充実を図ります。 | 子育て支援センター | | | | ● | | | | | | | | | | |

| 施策・事業名 | 概　要 | 所管課・室名 | つながり・支え合い | | | | 安全・安心 | | にぎわい・交流 | | | | | 自然・文化 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | プロジェクト名 | 01 ボランティア人口を増やすための仕組みづくり | 02 リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援 | 03 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり | 04 多世代・多国籍・多文化で交流し支え合う身近な居場所づくり | 05 安全なまちをめざした地域の見守り運動 | 06 公園や空地を活用した子どもが楽しめる防災イベント | 07 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり | 08 草加西部地区の魅力ＰＲ | 09 地域交流のきっかけとなるマルシェ（青空市場）の開催 | 10 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会 | 11 母国の文化や言葉の交流による関係づくり | 12 地域の自然や歴史を巡るウォーキングルートの発掘と創出 | 13 地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり | 14 多様な農業のあり方による『農のある風景』の保全 |
| **自主防犯活動・自主防犯活動補助金** | 自主防犯活動団体に対して補助金を交付しています。町会や自治会、ＰＴＡ団体が熱心にパトロール活動をしています。 | くらし安全課 | | | | | ● | | | | | | | | | |
| **巡回指導員（警察ＯＢ）によるパトロール活動** | 駅周辺の路上喫煙や悪質な客引きに対する指導、小中学校や保育施設周辺における子どもの見守りを実施しています。 | くらし安全課 | | | | | ● | | | | | | | | | |
| **都市計画マスタープラン推進事業** | 地区別懇談会を実施し、地域の方同士の交流やまちづくりへの参加のきっかけづくり、地域のまちづくりに関する意識啓発などを行っています。 | 都市計画課 | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| **空き家バンク** | 宅地建物取引業協会埼玉東支部等と連携し、空き家バンクの運営を行っています。また、空き家バンクについては草加市ホームページ等を通して情報提供を行っています。 | 都市計画課 | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| **生産緑地指定推進保全事業** | 生産緑地の追加指定や特定生産緑地への移行を進めることで、都市の貴重な緑地、オープンスペースである生産緑地を保全し、良好な都市環境の形成を図ります。 | 都市計画課 | | | | | | | | | | | | | | ● |
| **公園維持管理事業** | 市内の公園の安全性を確保し、安全かつ潤いのある憩いの場として利用していただくよう維持管理を行っています。 | みどり公園課 | | ● | | | | ● | | | ● | | ● | | | |
| **学校応援団** | 学校、家庭、地域全体で子どもを育てるため、学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織です。 | 子ども教育連携推進室 | | ● | | | | | | | | | | | | |
| **こどもひなんじょ** | 不審者等による犯罪の危険があった際、子どもたちが駆け込むことのできる避難先として「こどもひなんじょ」を設置しています。協力家庭・事業所は「こどもひなんじょ」の看板を掲示しています。 | 子ども教育連携推進室 | | | | | ● | | | | | | | | | |
| **スクールガード・リーダー** | 子どもたちの登下校時の安心・安全を確保するため、各小学校に１名ずつスクールガード・リーダーを配置し、見守り活動を行います。 | 子ども教育連携推進室 | | | | | ● | | | | | | | | | |